

(仮称) 横浜山手Ⅰ計画 景観形成の考え方

SAKAKURA ASSOCIATES
architects and engineers

景観形成の方針 全体配置図と手法

- ①道路境界からの建物の引き・奥行きを重視し、旧居留地の邸宅のスケール感を継承します。
- ②セキュリティラインを工夫し、歩行者空間の拡張により余裕のある地域景観に寄与します。
- ③周辺の公園等を結ぶように、既存と新植の緑のネットワークを繋ぎます。

主な既存樹木が
アイストップとなる箇所
 緑のネットワーク
 各敷地セキュリティライン

**A・B 敷地：
今回の再審議対象**



港の見える丘公園
拡張予定地：
ユリノキ・タブノキ・
エノキ・ヒマラヤスギ
サンゴジュ

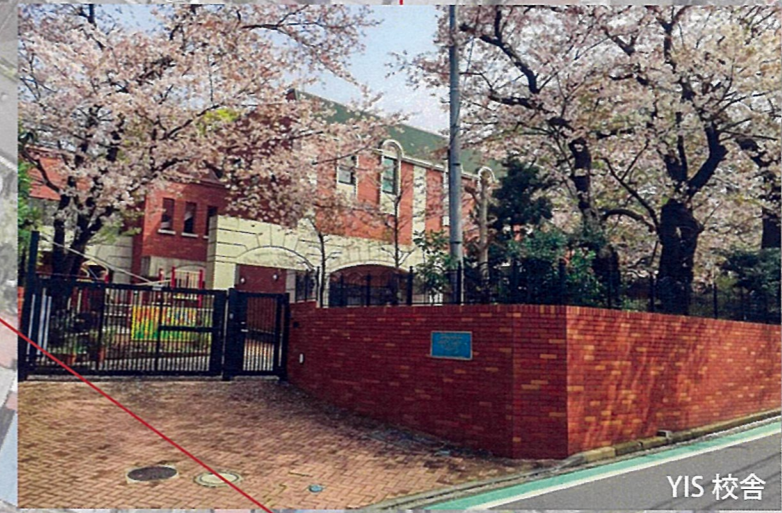
イギリス館前：
タブノキ・スタジイ・
エノキ・ヒマラヤスギ

111 番館：
ヒマラヤスギ

ブラフ 99
ガーデン

交差点：
クスノキ

外人墓地



YIS 校舎



近代文学館小径



外人墓地



イギリス館

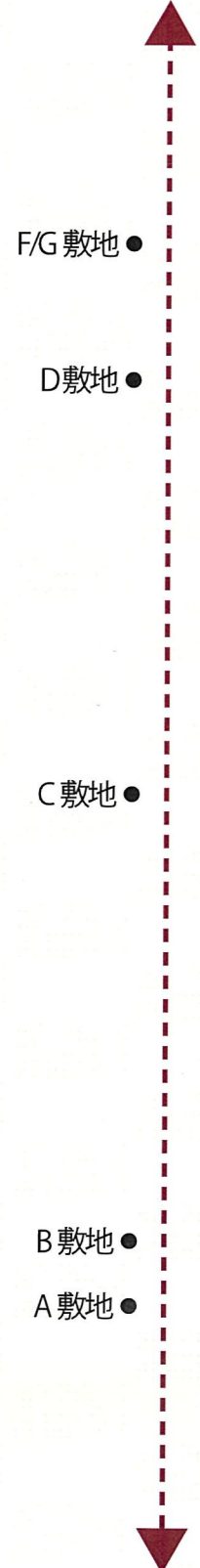
S=1/1000

■提案：新築建物のデザインの要素と、敷地毎の特徴付けを明確にします。

街並みスケール：形態

●敷地毎の立地周辺環境による形態要素

落ち着き・塊感・
陰影・プライベート



F/G 敷地 ●



シンボルツリーと
塊感のある建築の組合せ

経年優화를期待する
本物の素材

D 敷地 ●



風の通る
軒下空間

C 敷地 ●



視線の抜けと
奥行の見え隠れ

B 敷地 ●



透過性を
もたらずゲート・
キャノピー

A 敷地 ●

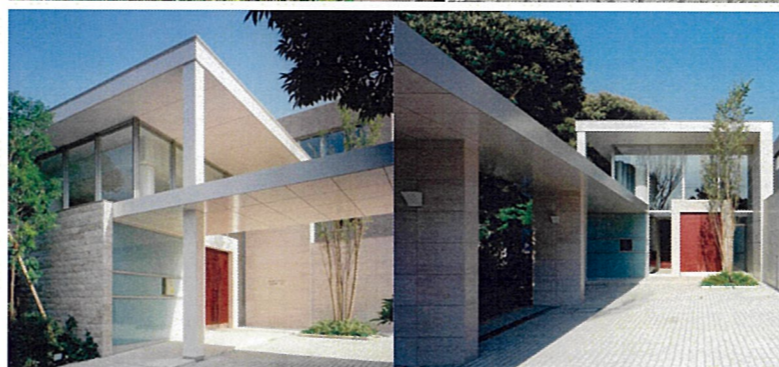
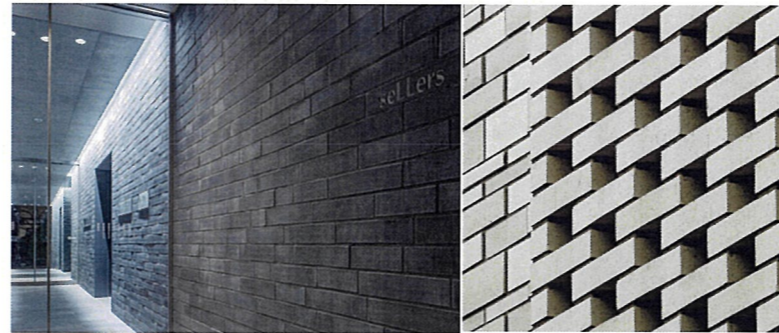


光を通すファサード

軽快さ・透明感・
明るさ・パブリック

ヒューマンスケール：素材

●時代を超えて親しまれるような、肌触りのある外装素材を
アクセントとして採用



歴史的、土地的要素：モチーフ

●山手の景観構成要素である石・鉄・水・緑



洋館の白壁とアルコーブ



洋館の白壁と大窓



水源地と水景



石積

アイロンフェンス

■ 前回都市美での意見：

- ・歩道を拡張するなど、道行く人々の入りやすさを工夫する事。
- ・交差点に面した部分のパブリック性を高める事。
- ・陣屋坂添いの圧迫感を軽減する工夫を行う事。

都市美審議会後の今回対応案

■ 今回の変更点：

- ・歩道沿いの外構要素をセットバックさせ、歩道幅を大きくします。
- ・交差点に面した奥行きのある大きな空地部分を広場状に整備し、ベンチなどを設置します。パブリック性をより高め、人々が入りやすく親しみやすい設えを整備します。
- ・陣屋坂沿いにおいて、地盤を低くしたり建物ボリュームをセットバックさせる工夫を行います。

外構要素をセットバックし、前面道路歩道を拡張しました。全体の緑地帯の広さは同等を保っています。

建物の手前と奥を繋ぐ軸：視線の抜けを大事にし、奥行きが感じられます。

既存の歩道範囲
新たに遊歩道として拡張する範囲

視線の抜けるラウンジ

視線の抜けるラウンジ

山手本通り越しにプラフ99ガーデンを眺めるベンチ

車寄せは北側に寄せ、交差点に面した広場の間口をより大きく確保します。

水景を眺めるベンチ

外人墓地进行を眺め、異国横浜山手の雰囲気を感じるベンチ

紅葉と花の四季を感じるベンチ

交差点を見返ししながら広場内での対話も生かすベンチ

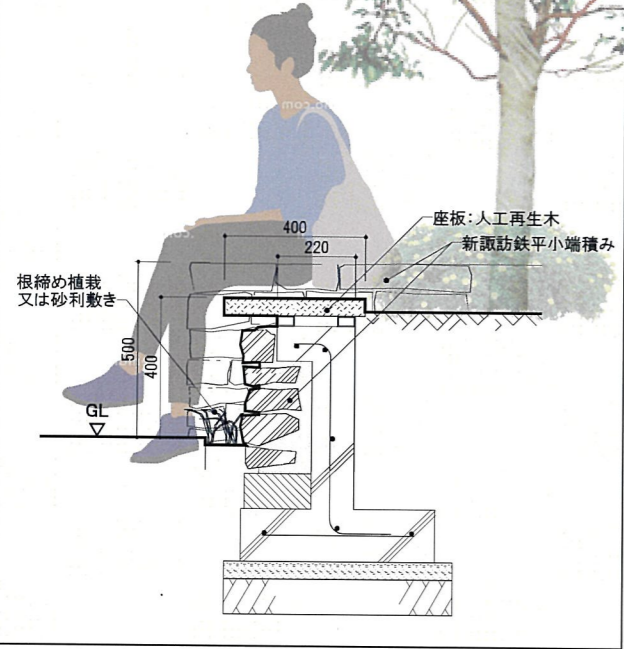
陣屋坂沿いの擁壁について高さを70cm下げました。また、植栽可能範囲を拡張して確保し、圧迫感の軽減を行いました。

ベンチの整備など誰でも入りやすい設えの向上、憩いのオープンスペースの拡大を行いました。

開放した歩道拡張部分は、景観協議に基づく、どなたでも利用できるエリアであることを示すサインを設置します。

■前回都市美時からの変更点：
 交差点に面した奥行き大きな空地部分の
 パブリック性をより高め、人々が入りやすく
 親しみやすい設えを整備します。

ツリーサークルなどを活用し、
 訪れた方々の憩いの場となるベンチを
 各所に整備します。



クスノキ (既存)
 土地の記憶と、
 隣地の繋がり

新たに遊歩道と
 して拡張する範囲
 既存の
 歩道範囲
 歩道幅:現状約1.8m
 →約3.3mへ拡張

ケヤキ H10m
 木陰を作る

山手本通り越しに
 プラフ99 ガーデンを
 眺めるベンチ

建物の手前と奥を繋ぐ軸：
 抜けを大事にし高木を外します。

共用部
 (ラウンジ)

共用部
 (ラウンジ)

水景を眺めるベンチ

ゲンバヒメ
 H5m

ヤマガクラ
 H8m

紅葉と雪の
 四季を感じるベンチ

クスノキ (新植)
 H9m

カツラ H9m
 視線軸沿いの
 共通樹種

交差点を見返しながら
 広場内での対話を
 生むベンチ

ガーデンサークル
 舗装は石の乱貼りとし、
 人々を導きいれ、
 憩いの場の中心性を
 つくる

クスノキ (移植) H9m
 山手らしい存在感のある
 樹種が、敷地内外で
 つながっていく

外人墓地を眺め
 異国横浜山手の雰囲気
 を感じるベンチ

20215
 原図彩色



前面道路の舗装敷のテクスチャを尊重します。
 敷地境界内のオープンスペース部分は、近似の床仕上げを選定します

- 前回都市美時からの変更点：交差点に面した奥行きのある大きな空地部分のパブリック性をより高め、人々が入りやすく親しみやすい設えを整備します。ベンチの整備など誰でも入りやすい設えの向上、憩いのオープンスペースの拡大を行いました。歩道沿いの植栽帯を後退し、歩行者空間を以前より広く確保しました。車寄せは北側に寄せ、交差点に面した広場の間口をより大きく確保します。



ブラフ 99 ガーデンに呼応した植栽帯・遊歩道



山手地区の起伏に呼応した外構の石積



元町公園に呼応した水景

山手本通り側：
ブラフ 99 ガーデン交差点側より

■前回都市美時からの変更点：交差点に面した奥行き大きな空地部分のパブリック性をより高め、人々が入りやすく親しみやすい設えを整備します。ベンチの整備など誰でも入りやすい設えの向上、憩いのオープンスペースの拡大を行いました。外構要素をセットバックし、前面道路歩道を拡張しました。

港の見える丘公園側隣地との連続感をもたらす目的で、隣地との境界線を後退させ、植栽で修景します。道行く人々にとっての魅力的な景観の一角を形成します。町並み及び壁面に配慮し、隣地建物に接した部分では計画建物の雁行ボリューム端部の角度を隣地と揃えます。

山手本通り側：
港の見える丘公園側より

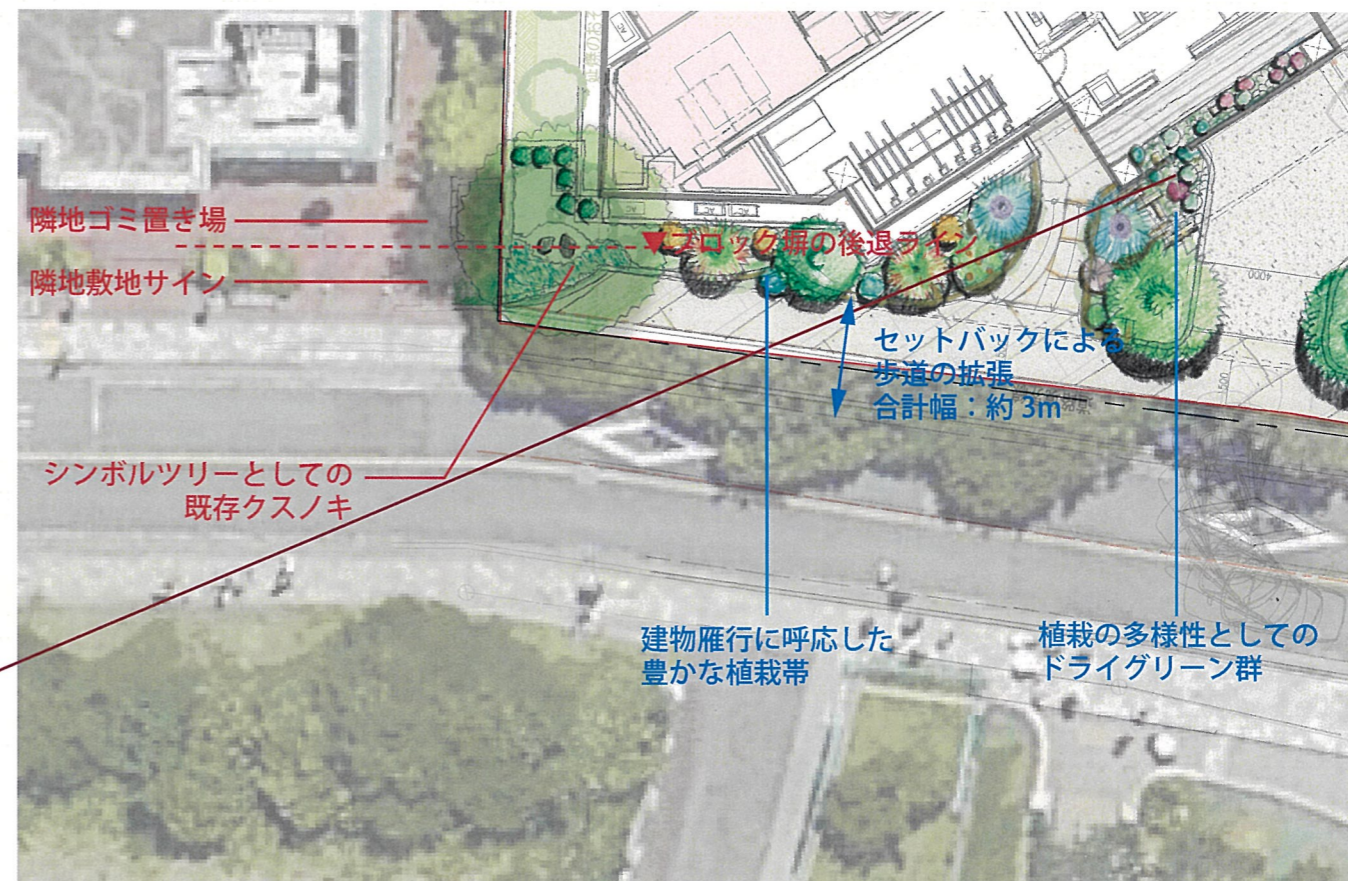


ブラフ積石保管状況



ドライガーデンのイメージ

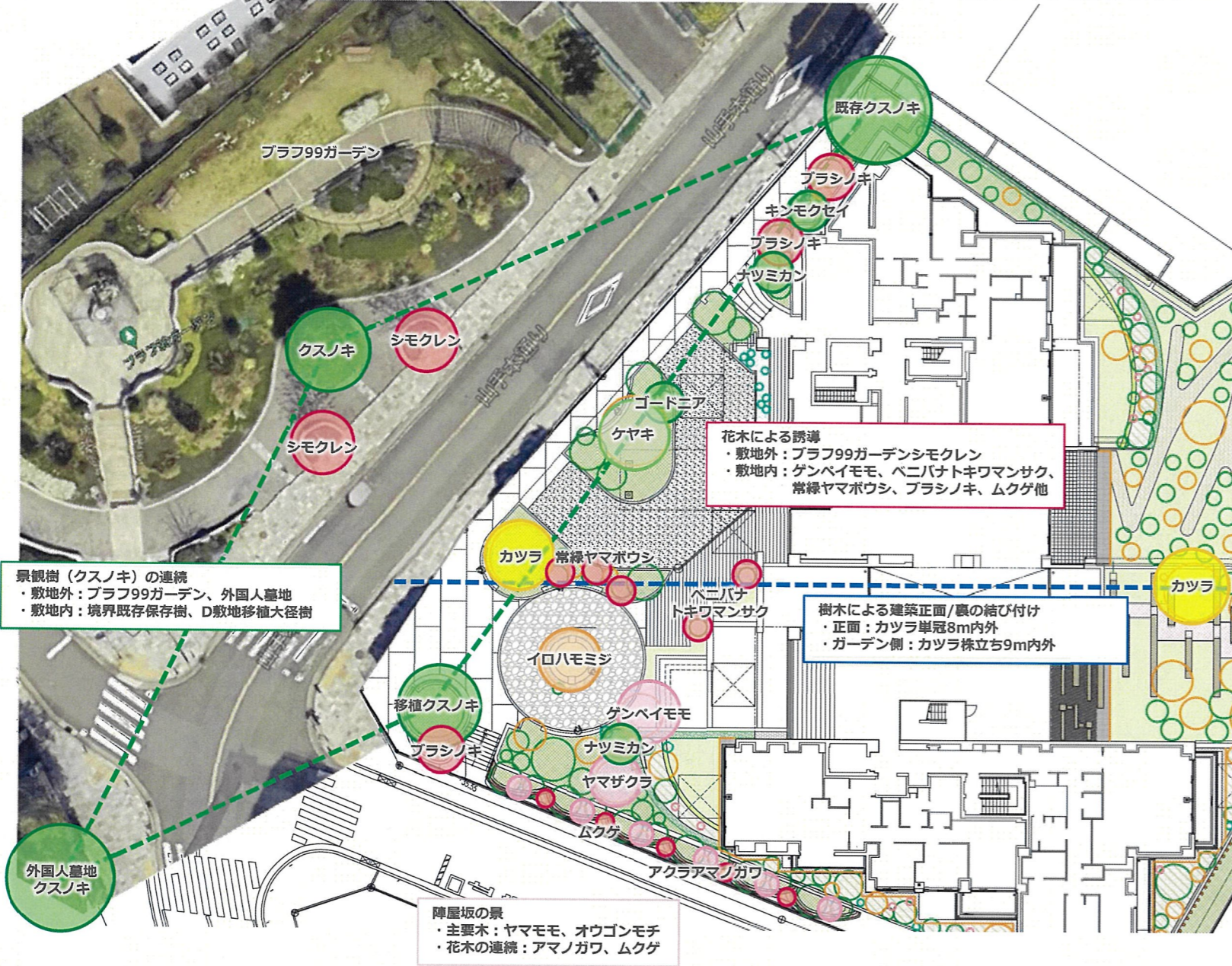
事業地から確保できたブラフ積房州石について、状態の良いものをA敷地内で景石として再利用します。ドライガーデンとしての一角を修景します。



景観形成の方針 植栽計画

植栽計画 近隣景観への融合と敷地内への誘導

ブラフ99ガーデンや外国人墓地などの特徴的な樹木を敷地内に取り込み、地域としての景観の融合をはかります。敷地内においても、景観樹や花木を連続させることで、歩行者を誘導し、歩きやすい空間づくりを行います。



クスノキ 景観木の連続と継承



樹木歴

春の花と新緑のリレー

早春のブラフ99ガーデンのシモクレンの開花から始まり、サクラやモモの花、カツラの新緑と春のリレーを展開します。



初夏～秋の花と紅葉のリレー

初夏のヤマボウシ、ブラシノキの花からムクゲの花、秋のキンモクセイの花と香りやモミジの紅葉と夏～秋のリレーを展開します。



景観の連続と冬の景

外国人墓地とブラフ99ガーデンのクスノキと呼応する移植と新植のクスノキを敷地内に植えて、周辺景観との連続性をつくります。また、冬に実がつくナツミカン、花が咲くゴードニア、葉色が美しいドライガーデンプランツにより、冬の景に彩を与えます。



■陣屋坂沿いの高低差は、擁壁のセットバックと多段緑化により修景します。多様な植栽が圧迫感を軽減しつつ、目立たない位置に地下駐車場を設けます。



ナンミ

ムクゲ

アマノガワザクラ

ヤマモモ



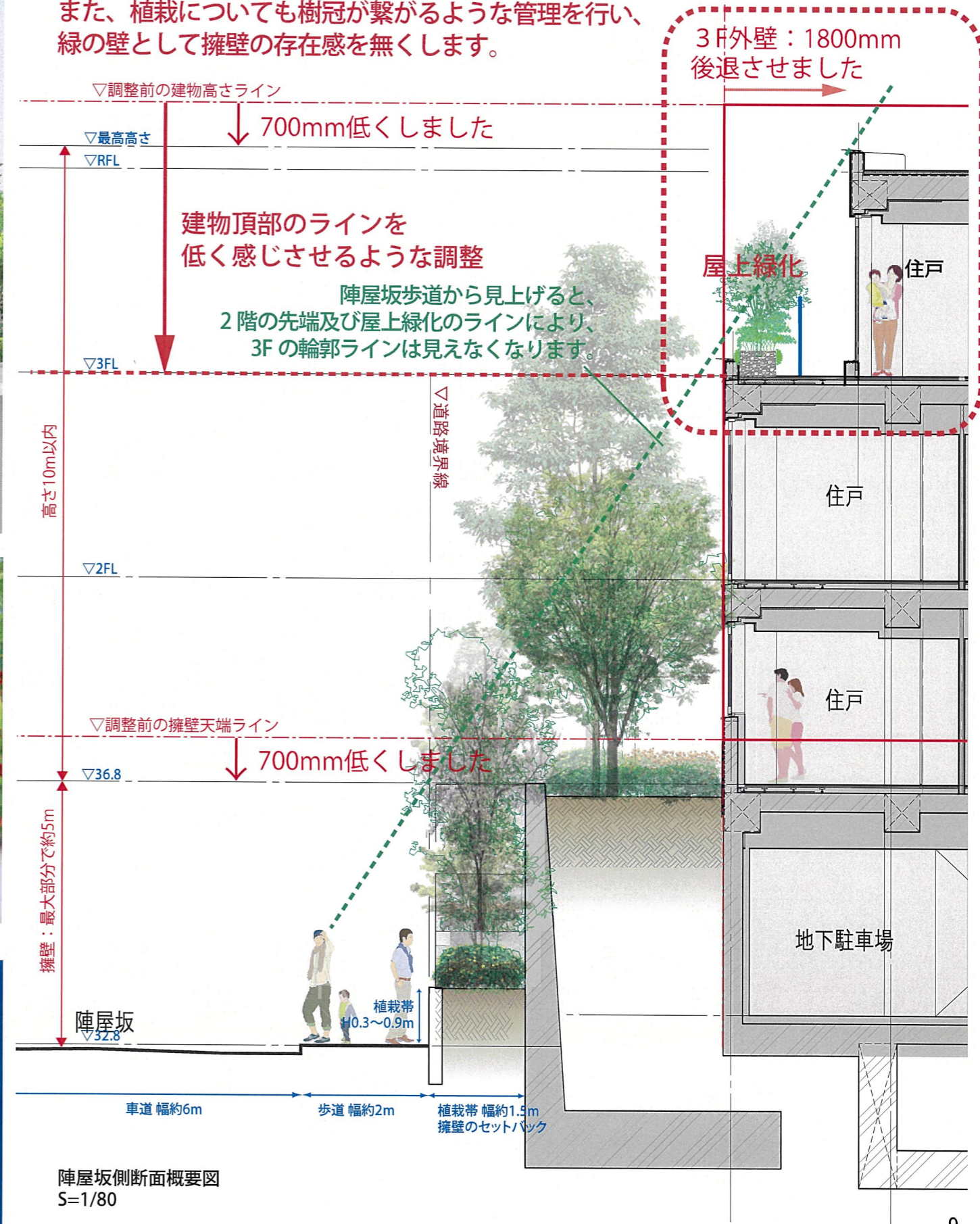
鉄平石小端積み



葉張りにより樹冠が連続している事例

■変更点：

- ・擁壁が最も高くなるポイントに近い建物ブロックでは、3Fの壁面をセットバックさせて屋上緑化を施します。
- ・擁壁（宅盤）自体の高さを前回提示時から70cm下げました。また、植栽についても樹冠が繋がるような管理を行い、緑の壁として擁壁の存在感を無くします。



11/28 都市美提示時の案

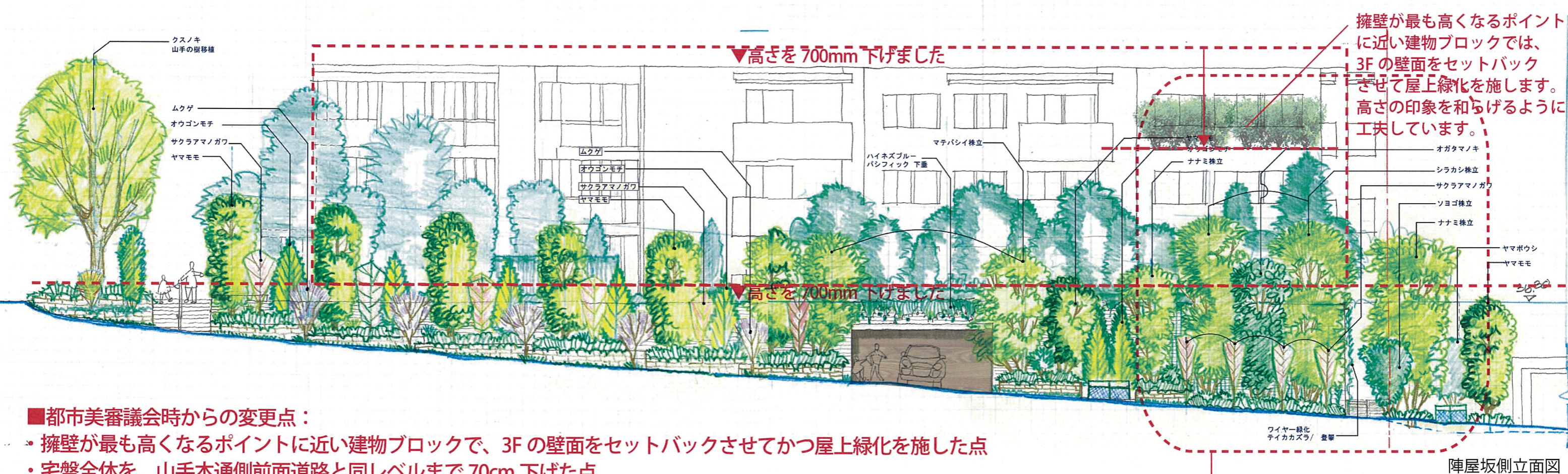


今回の変更案



■変更点：

- ・擁壁が最も高くなるポイントに近い建物ブロックでは、3Fの壁面をセットバックさせて屋上緑化を施します。陣屋坂を行き来する人々から、一層分低く感じるように工夫します。
- ・擁壁（宅盤）自体の高さを前回提示次から70cm下げました。また、植栽についても樹冠が繋がるような管理を行い、緑の壁として擁壁の存在感を無くします。

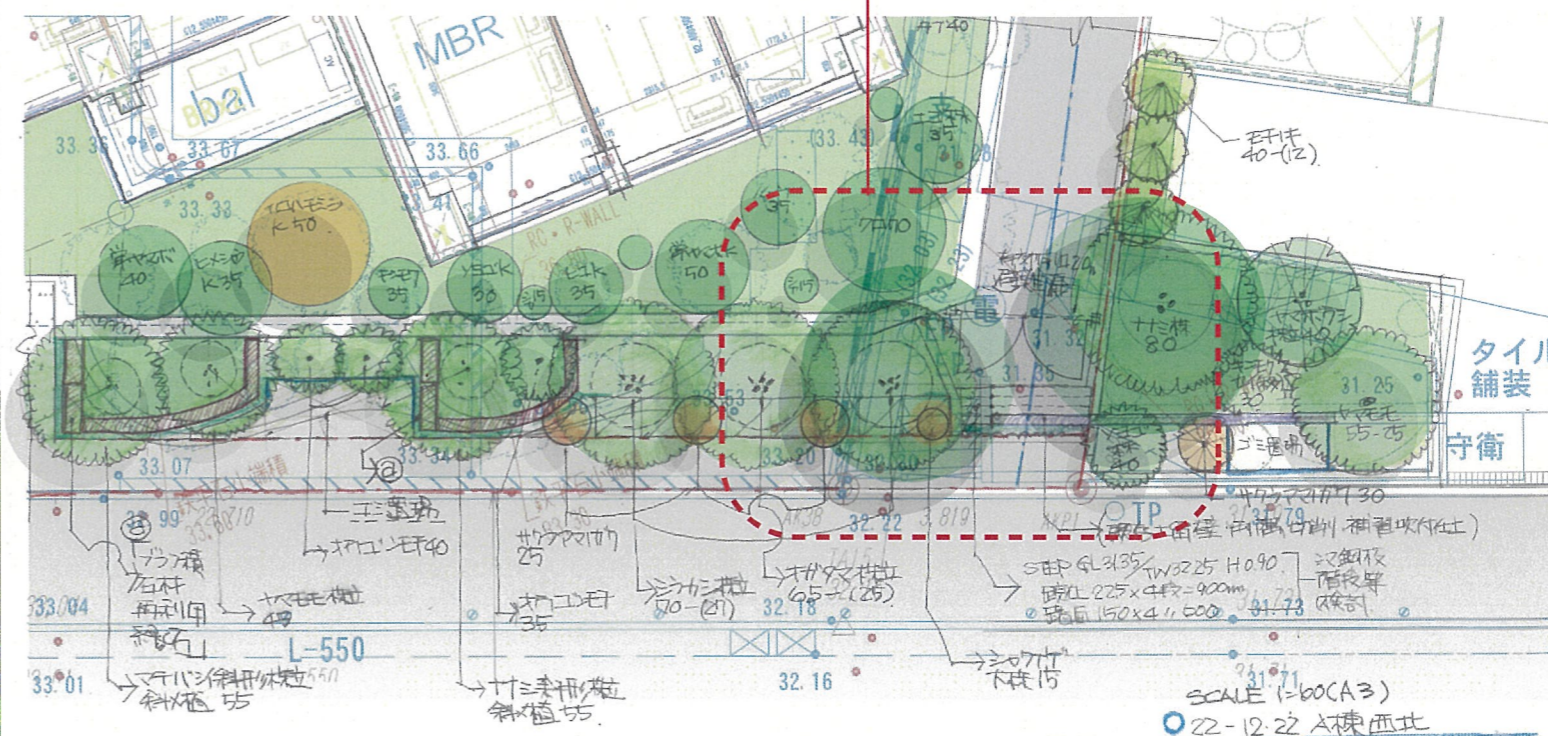


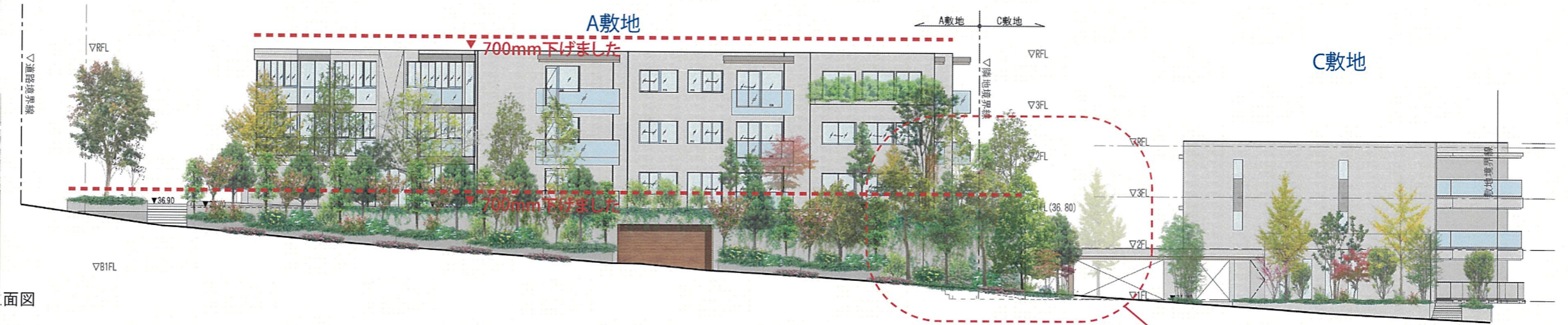
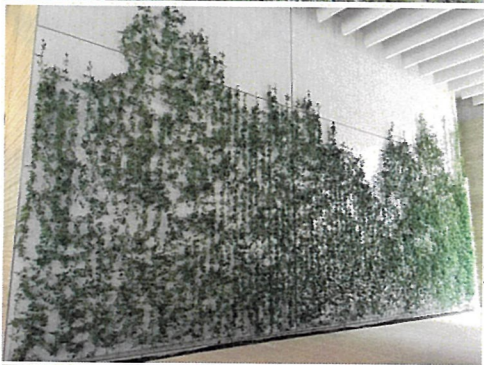
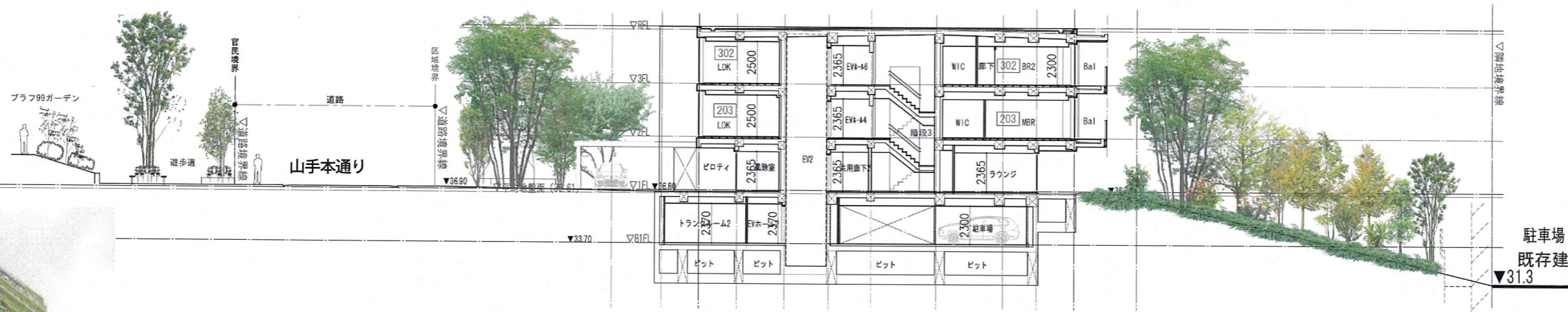
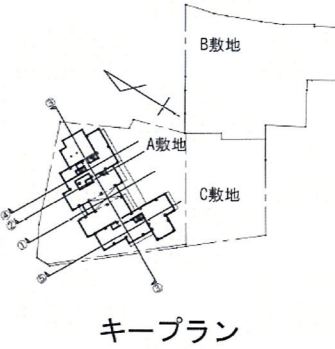
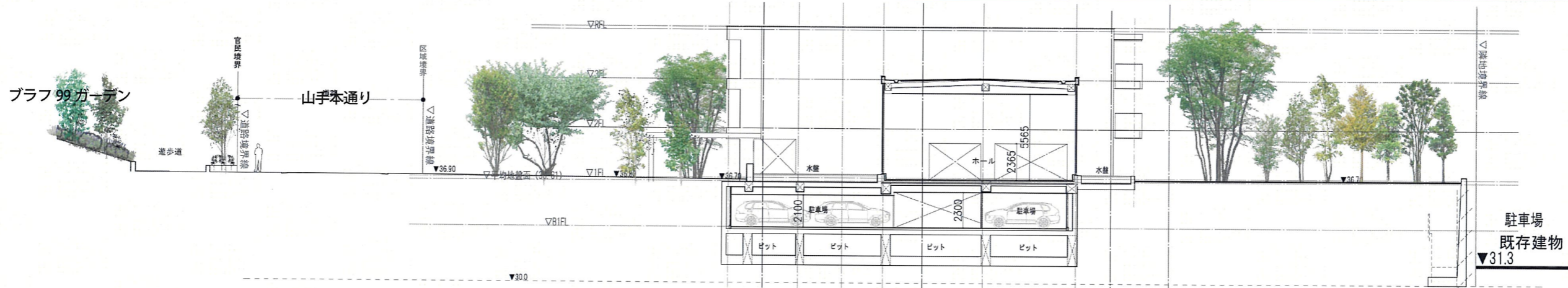
陣屋坂側立面図

■都市美審議会時からの変更点：

- ・ 擁壁が最も高くなるポイントに近い建物ブロックで、3Fの壁面をセットバックさせてかつ屋上緑化を施した点
- ・ 宅盤全体を、山手本通側前面道路と同レベルまで70cm下げた点
- ・ C敷地との境界線付近の通路及び植栽計画を見直した点

A-C敷地間の、通路部分のルートを見直し、最短距離とすることで植栽の途切れを無くしました。陣屋坂を歩くどの角度からも、擁壁の存在感ではなく厚みのある豊かな緑を楽しめる散策路として整備します。



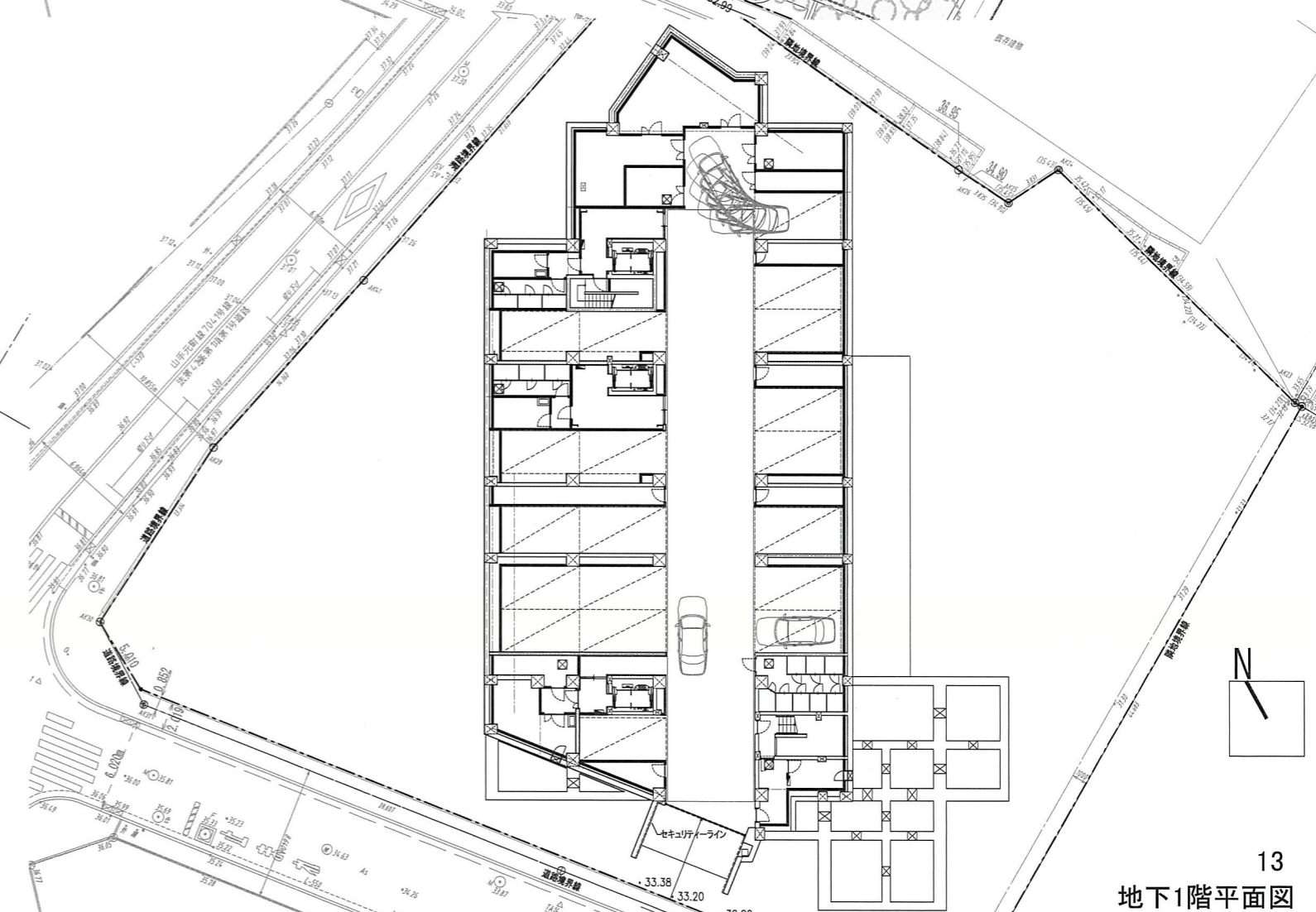
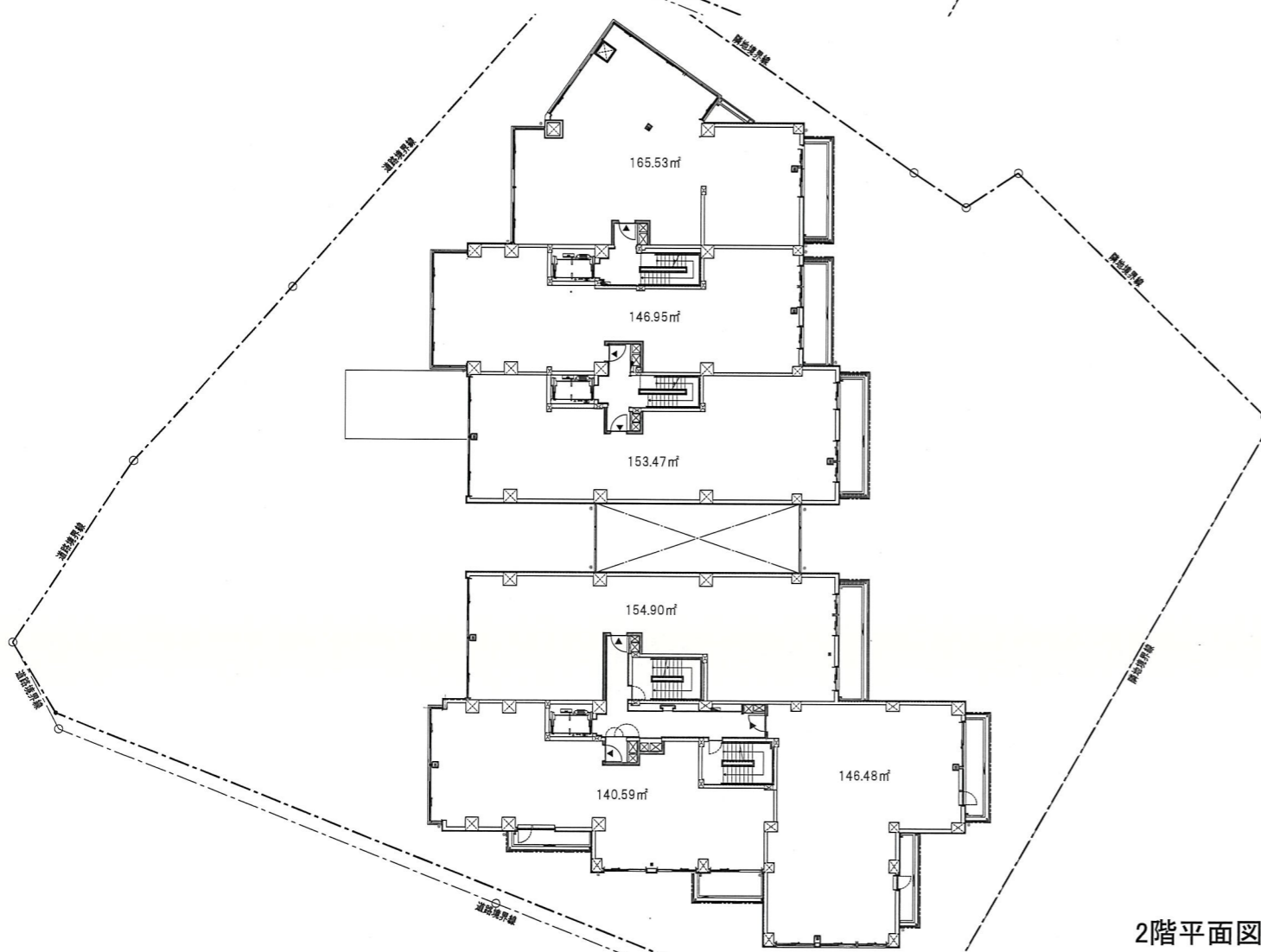
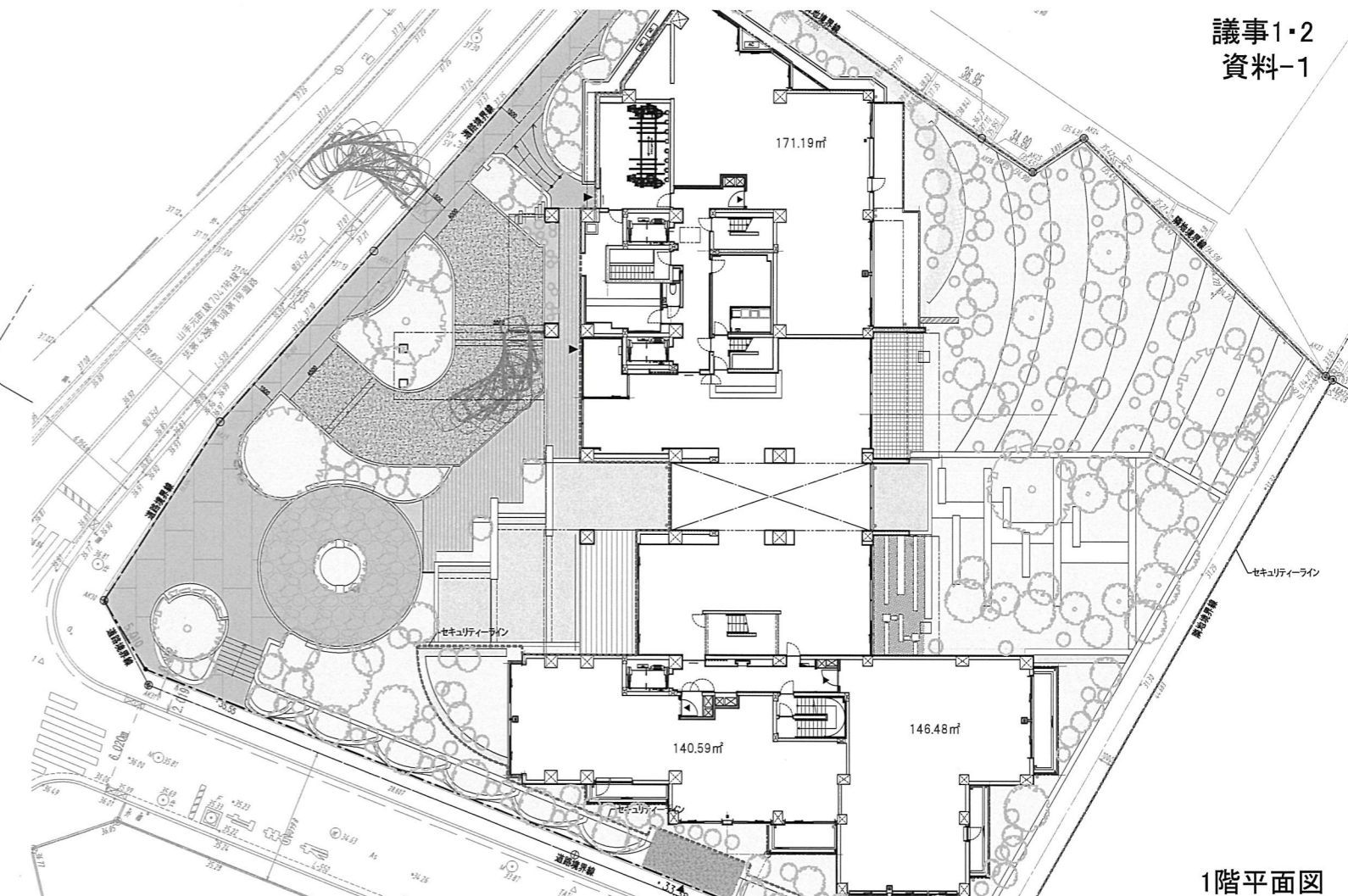
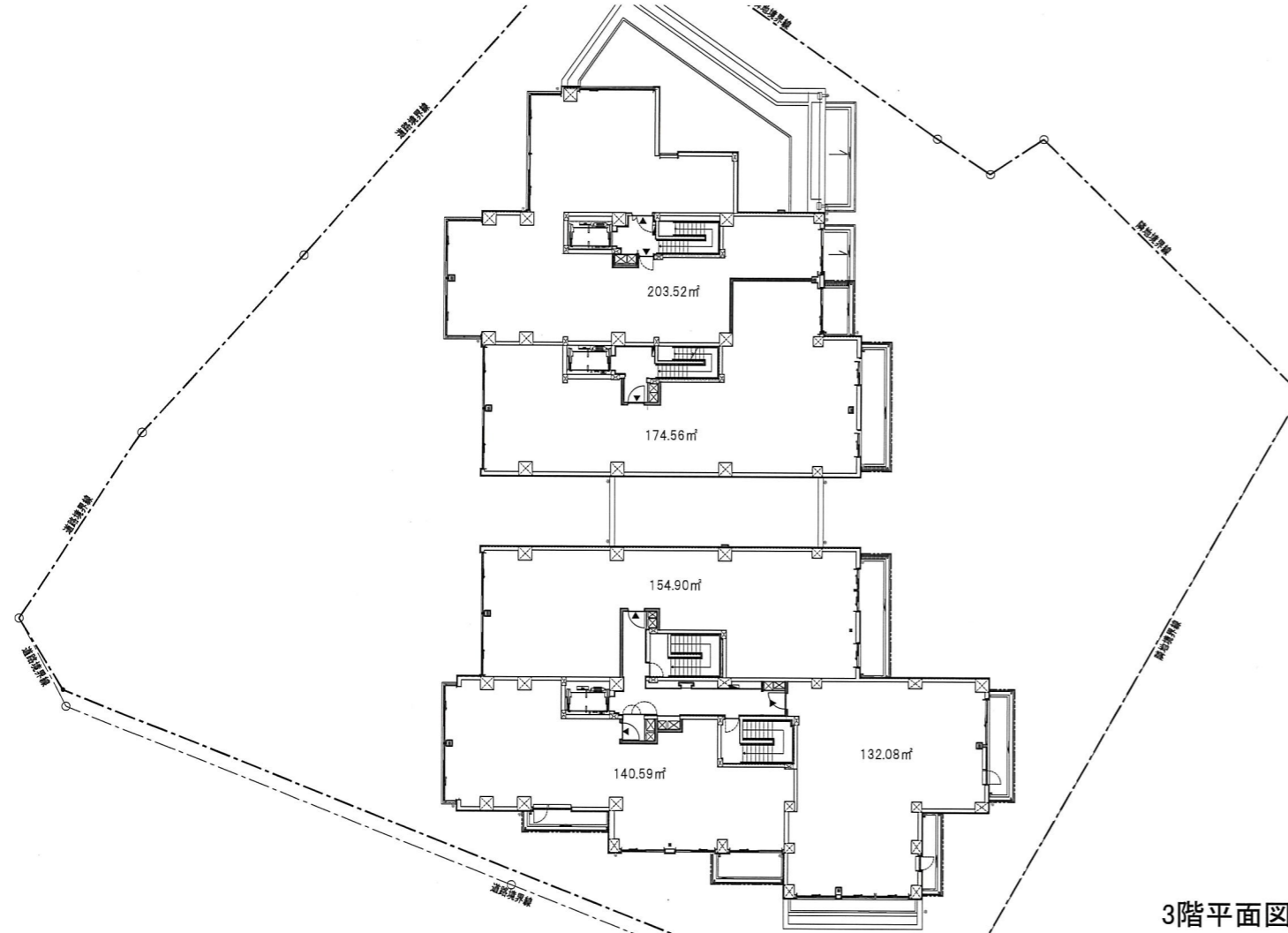


面図

A敷地とC敷地が樹冠で途切れることなく植栽を連続させ、陣屋坂沿いの高低差を彩りある魅力に活かしていきます。

つる性植物のワイヤー緑化の併用により、壁面全体を緑で覆います。

断面図・立面図
S=1/300



■前回都市美での意見：

- ・前面歩道から敷地内への入りやすさを高める工夫を検討する事。
- ・長大な立面の印象を和らげるために、分節の工夫を検討する事。
- ・隣地側（C敷地側）からの見え方として、車路や建物での高さの印象が過大とならないようにすること。

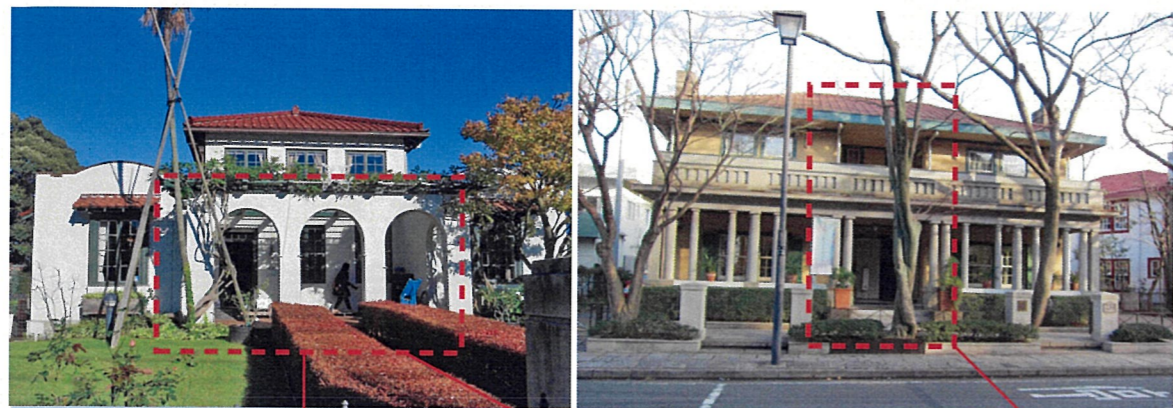


建物を道路境界線に対して可能な限り大きくセットバックして、花と緑の庭をつくります。
 ⇒効果：港の見える丘公園の明るく華やかな雰囲気を取り込んだ庭をつくることで、イギリス館の周りに広がる庭の1つとして、花と緑のネットワークをつなぎます。
 これまで公園に隣接する空間でしかなかった場所をセミパブリックな空間として整備・開放し、四季を通して、豊かな花と緑を感じ触れ合うことができる庭を創出します。

■今回の変更点：

- ・親しみやすいスケール感をより高めるために、3つのゾーンで外観を分節しました。
- ・拡張した歩道と回廊との間にパス（通路）を追加し、入りやすさに配慮しました。
- ・隣地側斜面に目隠し植栽や、屋上緑化等を施し、3層以内に見えるように工夫しました。

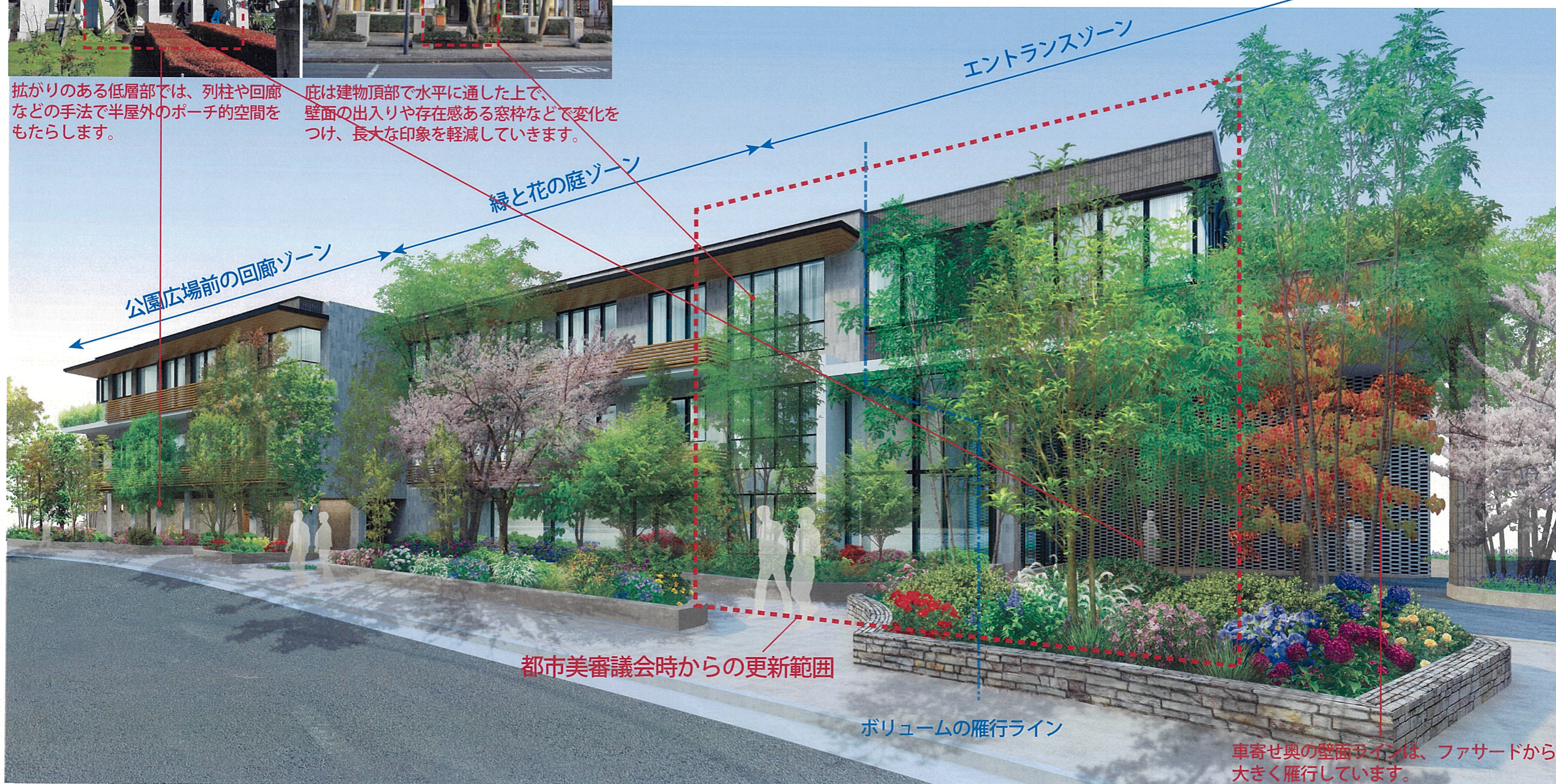
比較的大規模なタイプの山手洋館を参照します。



拡がりのある低層部では、列柱や回廊などの手法で半屋外のポーチ的空間をもたらします。

庇は建物頂部で水平に通した上で、壁面の出入りや存在感ある窓枠などで変化をつけ、長大な印象を軽減していきます。

■前回都市美からの変更点：親しみやすいスケール感をより高めるために、エントランスゾーン / 緑と花の庭ゾーン / 公園広場前の回廊ゾーンの3つに外観デザインのテーマを設定しました。



■建物を雁行させることにより、建物を分節し長大な存在感を抑えます。

→効果：山手エリアの文化となっている、邸宅のスケール感を守ります。外構や建物デザインのゾーン分けを行っています

■B 敷地では、向かい合う「港の見える丘公園」内に立つ洋館の意匠性を尊重します。デザインコードを抽出し、現代のセンスに解釈して建物外観に取り入れます。

■緑に包まれる低層部と、最上階で素材などを切り替え、スケール感を水平方向、高さ方向とも親しみやすくします。ファサード側には建築緑化を実施し、平面だけでなく立体的に植栽を展開します。

前回都市美時の案

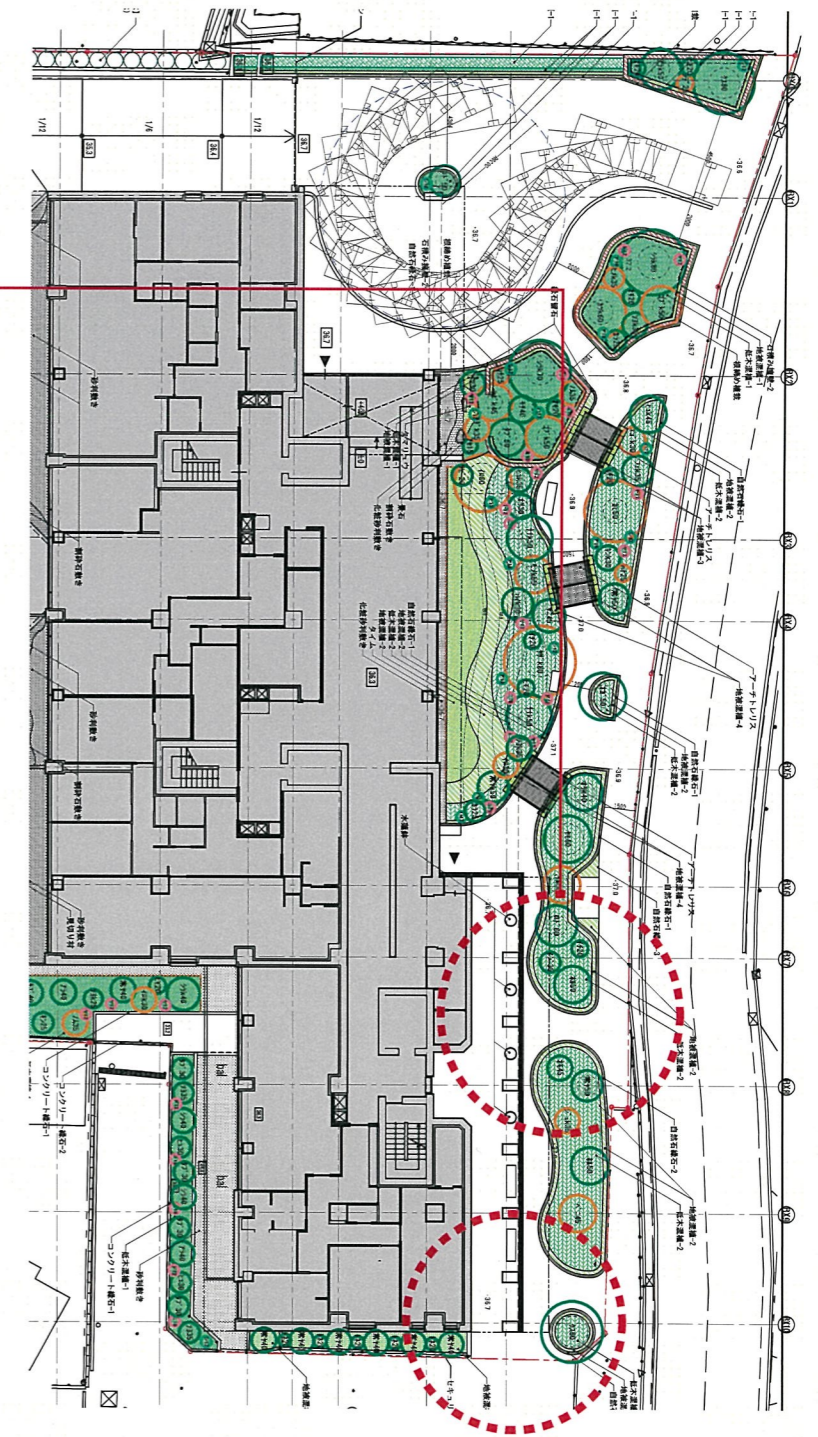


今回の更新案



■変更点：拡張した歩道と回廊との間にパス（通路）を追加し、
入りやすい回遊性や動線の多様さ、気軽さに配慮しました。

都市美時から特に変更を加えた箇所



隣接する山手洋館の特徴を抽出



アクセントと
なっている頂部

111 番館

建築緑化 半屋外のアルコーブ



イギリス館

濃色の窓枠 白系の明るい
外壁色

イギリス館前の木立



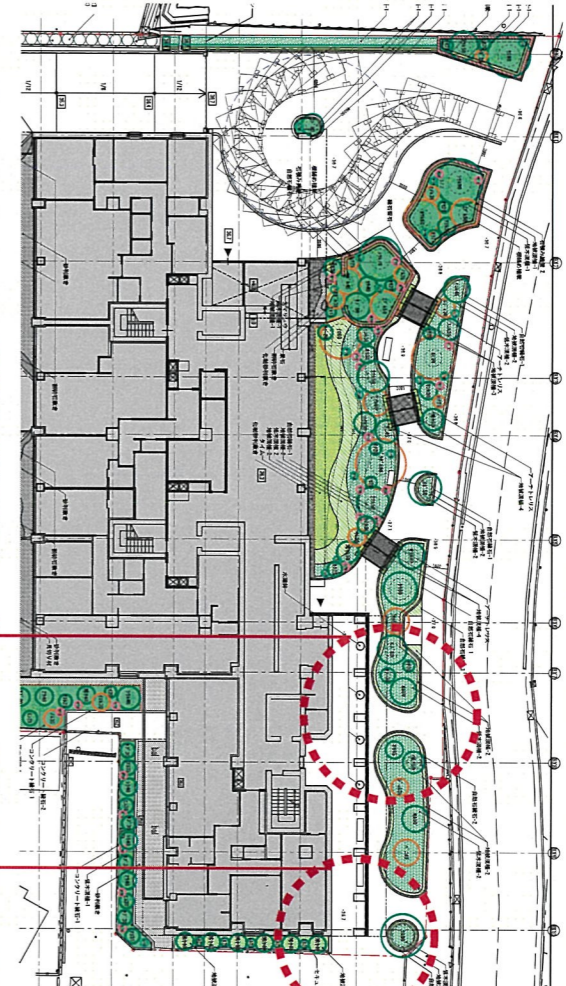
噴水広場



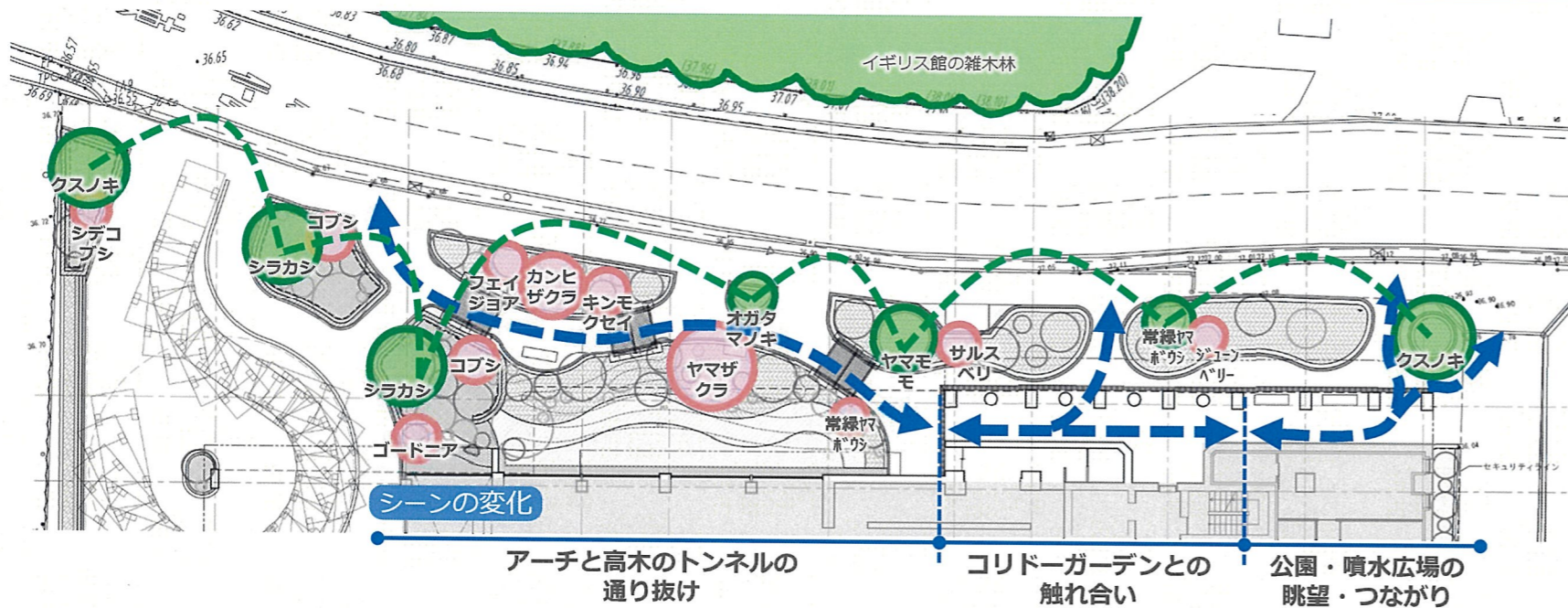
前回都市美時の案



今回の更新案



高木植栽



沿道の緑

常緑高木を一定の間隔で配植することで沿道に対して緑のリズムをつくり、公園側の緑豊かなイギリス館の雑木林とともに、快適な沿道空間を創出します。



クスノキ H8.0 シラカシ H8.0 オガタマノキ H5.0 ヤマモモ H6.0 常緑ヤマボウシ H6.0 クスノキ H8.0

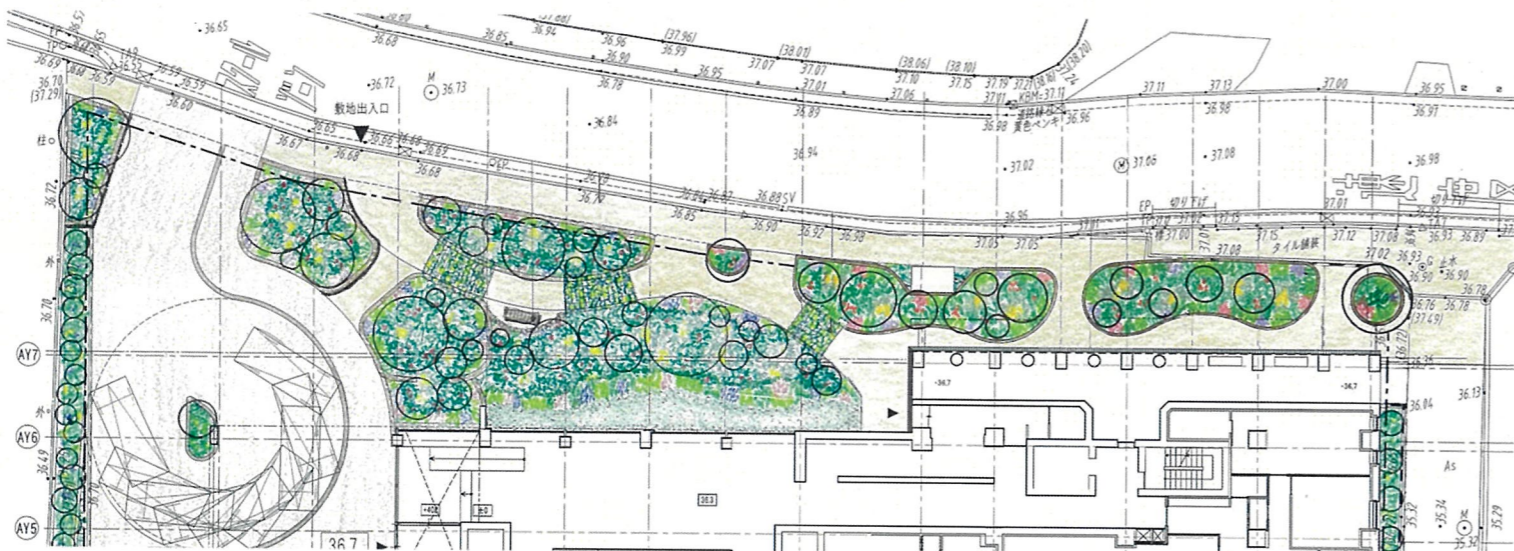
花木のリレー

花の咲く樹木を敷地全体に植えて、低木・草本とともに花と緑の庭をつくります。各季節を彩る花木による花のリレーを展開します。



低木・地被植栽

港の見える丘公園の緑とのネットワークを結ぶことを目的として、「イングリッシュローズ」「四季の彩り」をキーワードにバラや季節を彩る草花を植栽します。またマンションの庭として、1年を通した緑の景とメンテナンスの視点から、常緑性の低木・地被との混植やメンテナンスを考慮した植栽とします。



冬 12~2月開花



クリスマスローズ (1~4月) ジャパハリカ (1~4月)

春 3~5月開花



ムスカリ (3~4月) アジュガ (4~6月) ガザニア (4~11月) ラベンダー (5~7月) アカパンサ (5~7月) etc.

アーチ



つる性バラ クレマチス etc.

夏 6~8月開花



ブッドレア (7~10月) ギボウシ (7~8月) エキナセア (6~8月) クチナシ (6~8月) ヒペリカム (6~8月) etc.

修景バラ



修景バラ (ランドスケープローズ)

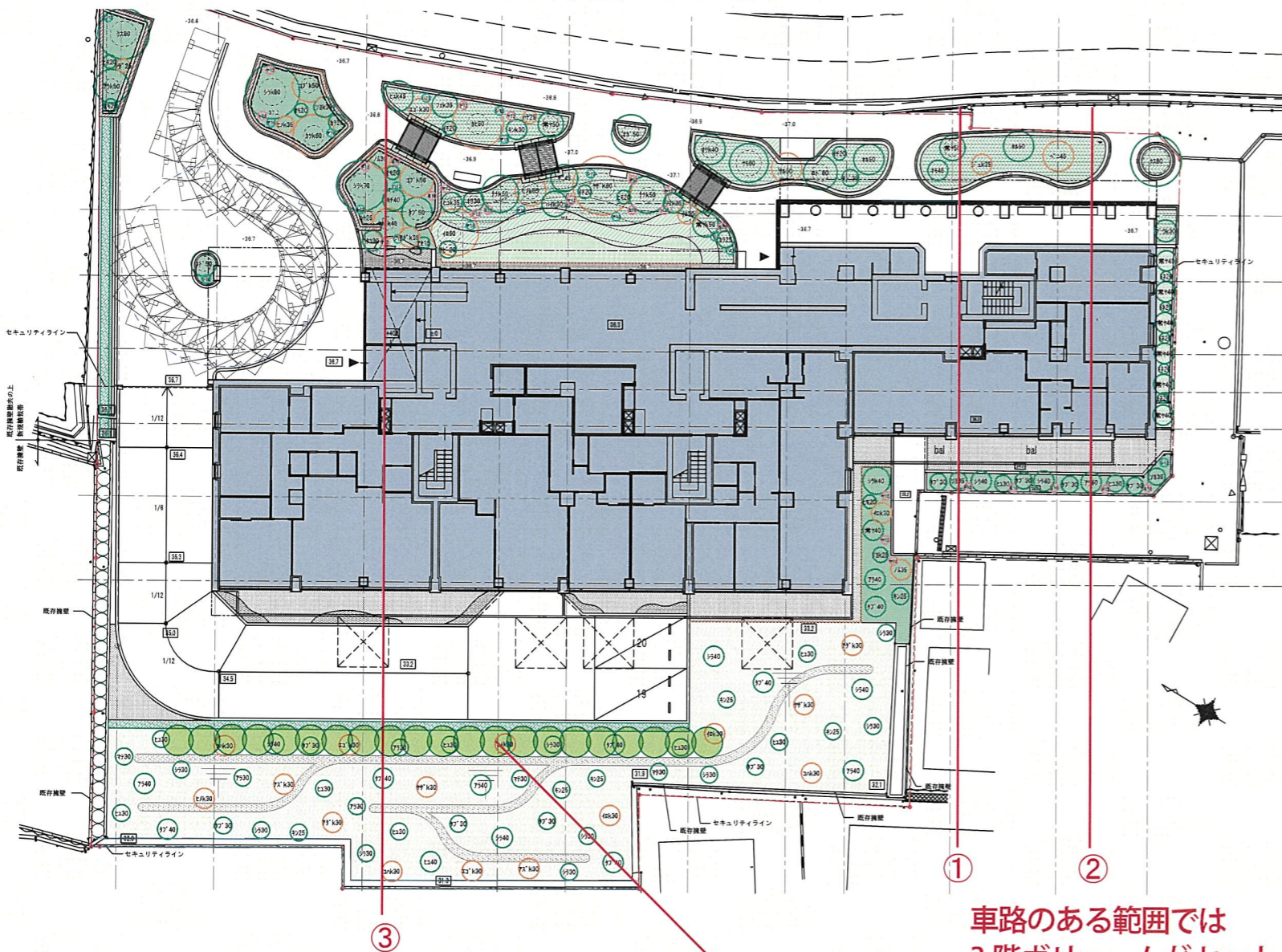
アクセントグリーン



コウサイソウ コルジリネ レッドスター etc.

■変更点:

隣地側(斜面)側からの実際の視点においても3層(高さ10m)以内に感じられるよう、車路の前に植栽を列植するなどの工夫を強化しました。



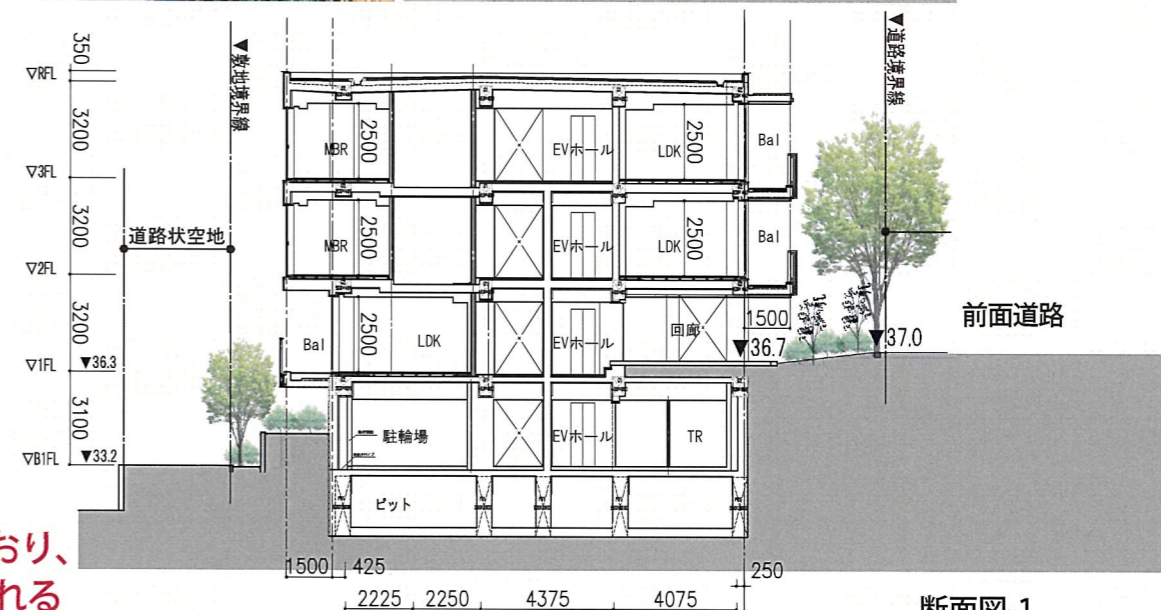
屋上部 緑化:
ハマヒサカキ・
ボックスウッド



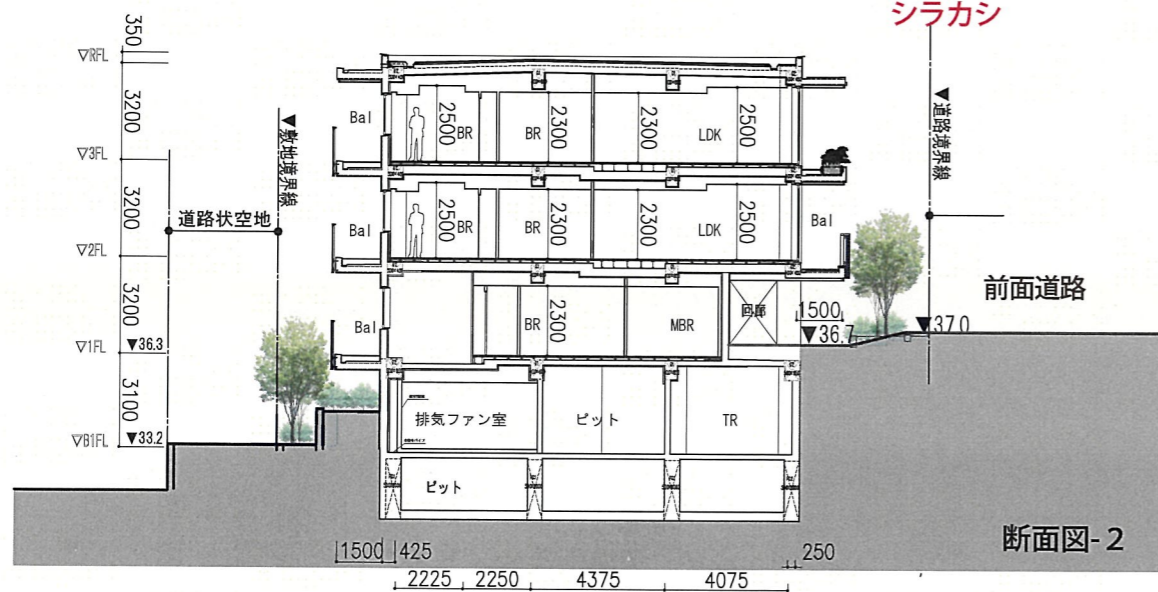
地上部 目隠し生垣:
シラカシ

車路のある範囲では3階ボリュームがセットバックしており、屋上緑化の効果と併せ低層に感じられる計画をしています。(次ページパース参照)

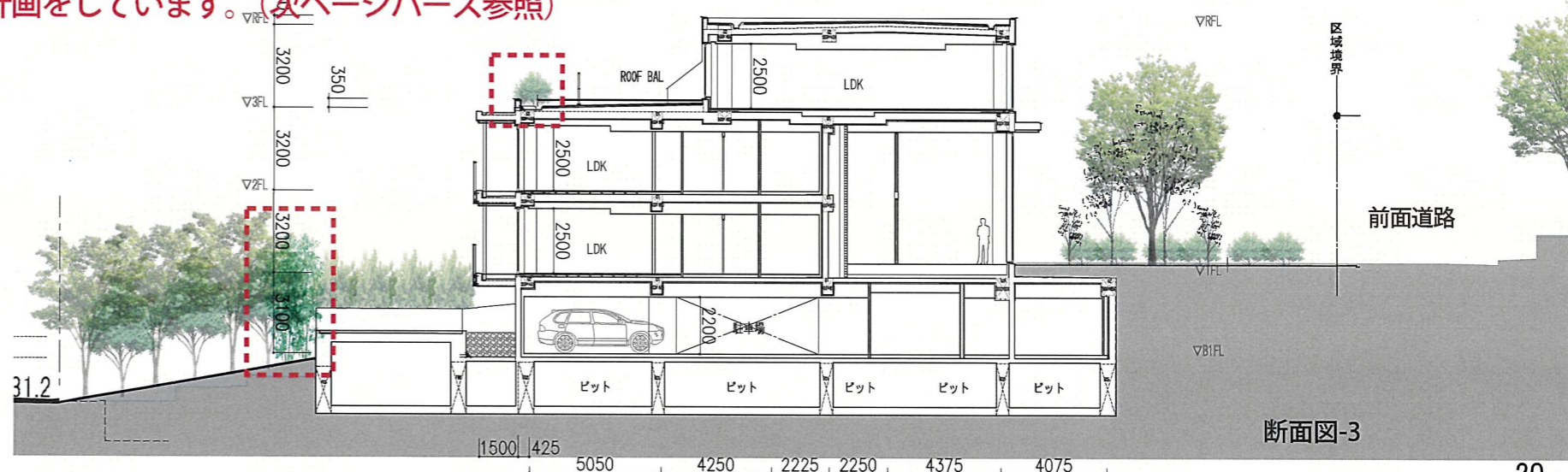
目隠し生垣:
シラカシ



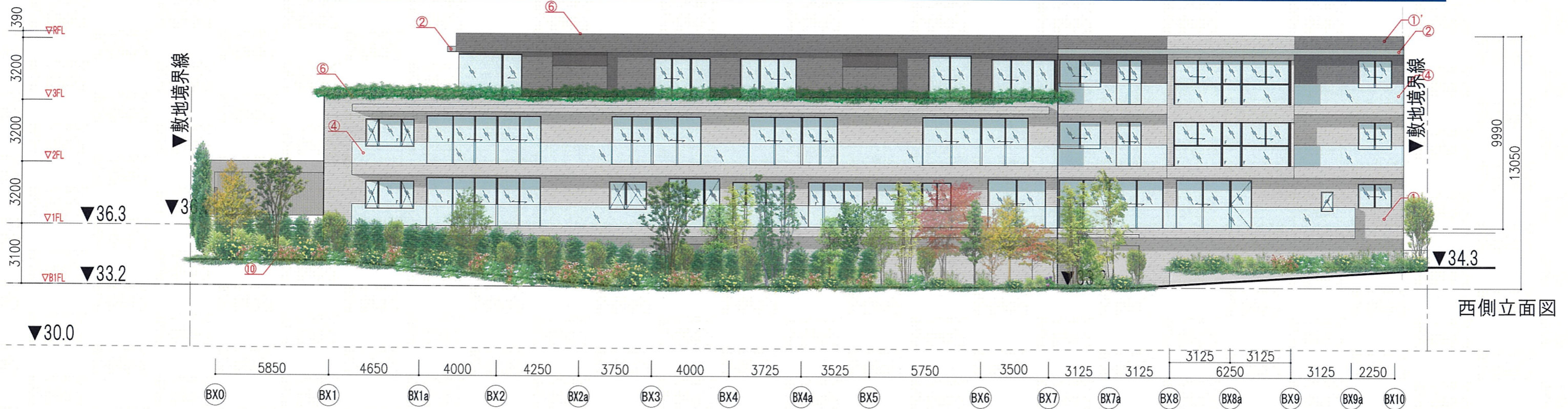
断面図-1



断面図-2



断面図-3



西側立面図

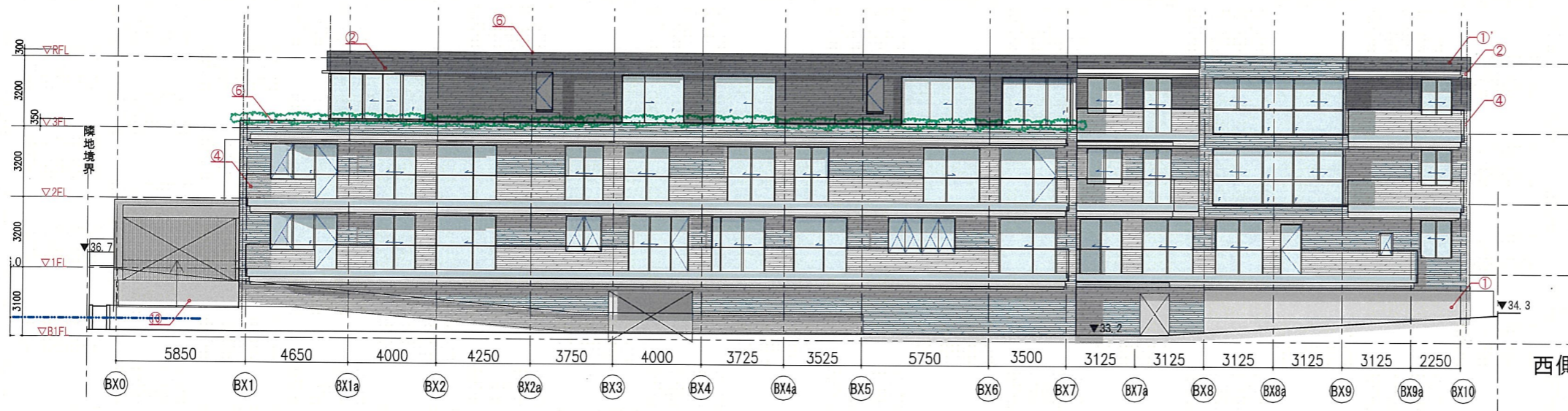


C 敷地内駐車場から B 敷地建物を望む



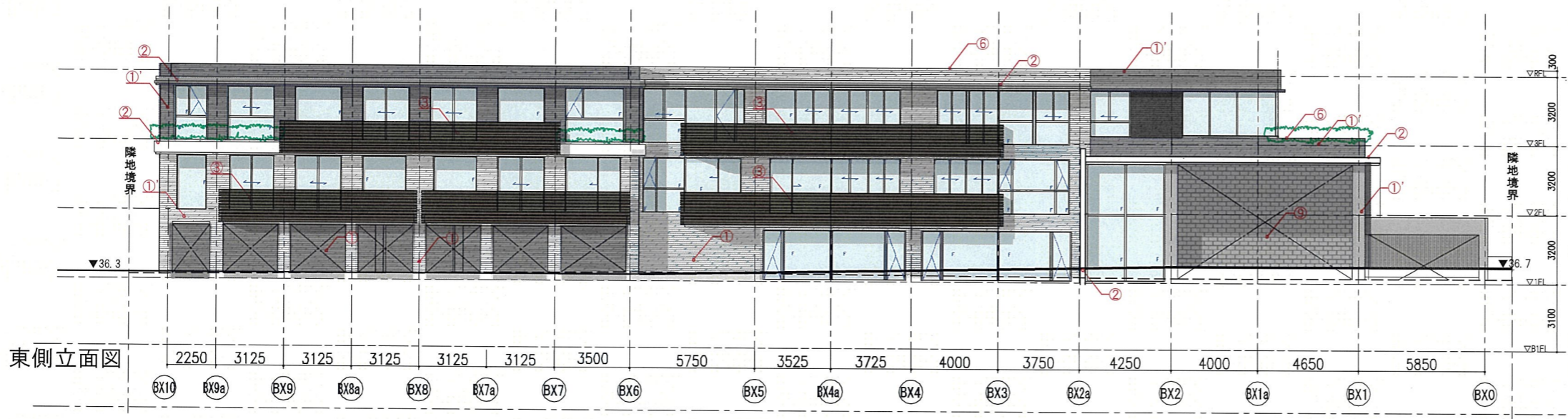
西側（陣屋坂）の道路から、C 敷地ゲート越しに B 敷地建物を望む

隣地側（斜面）側からの実際の視点においても3層（高さ10m）以内に感じられるよう、車路の前に植栽を列植するなどの工夫を強化しました。東側前面道路エリア、西側隣地エリア等の様々な視点から、景観上圧迫感の少ない3層に見えるよう、植栽及びボリューム操作を行っています。

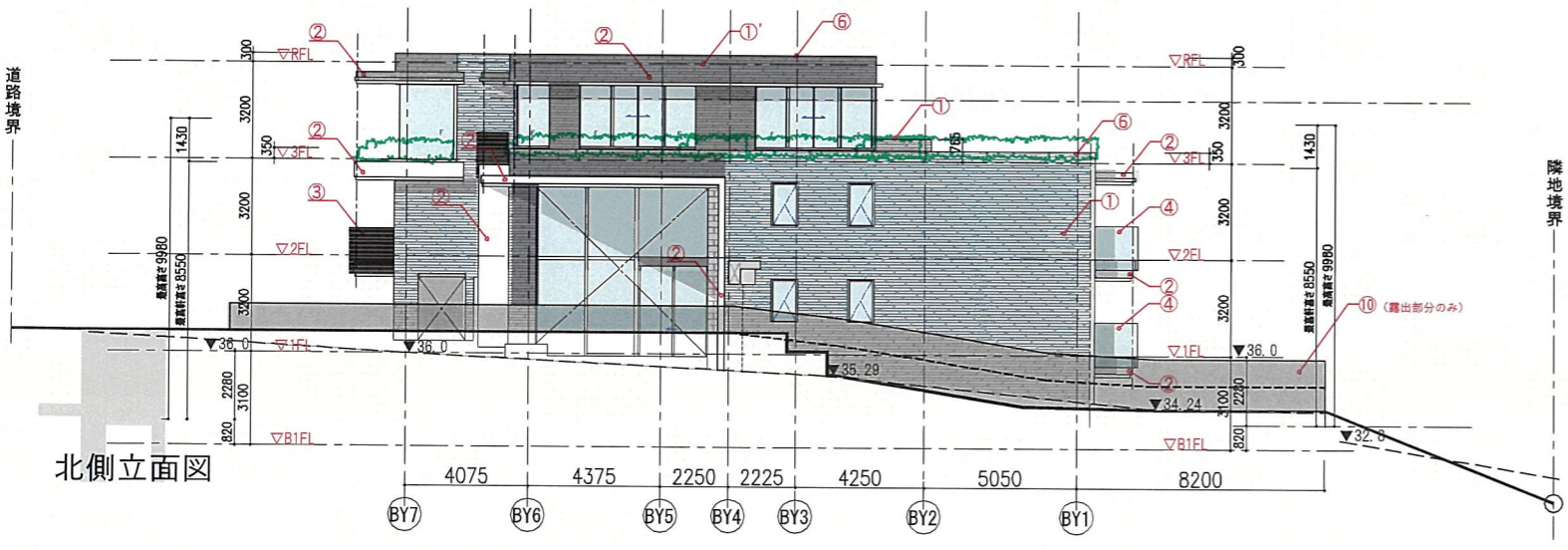


西側立面図

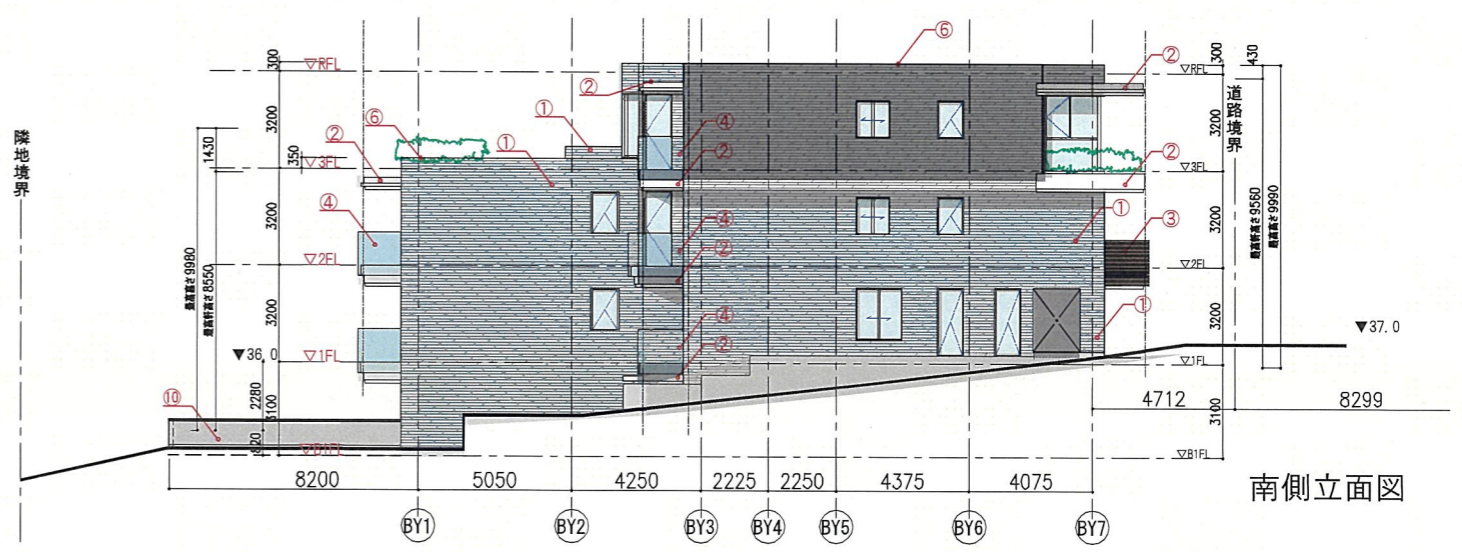
| | |
|---|---------------|
| ① | 石器質無釉タイル貼 |
| ② | 左官調塗装 |
| ③ | アルミ横棧ルーバー手摺 |
| ④ | ガラス手摺 |
| ⑤ | ガラス手摺 |
| ⑥ | アルミ笠木 |
| ⑦ | メッシュフェンスH1800 |
| ⑧ | アイアンフェンスH1000 |
| ⑨ | レンガブロック 透かし積み |
| ⑩ | RC本実木目化粧打ち放し |



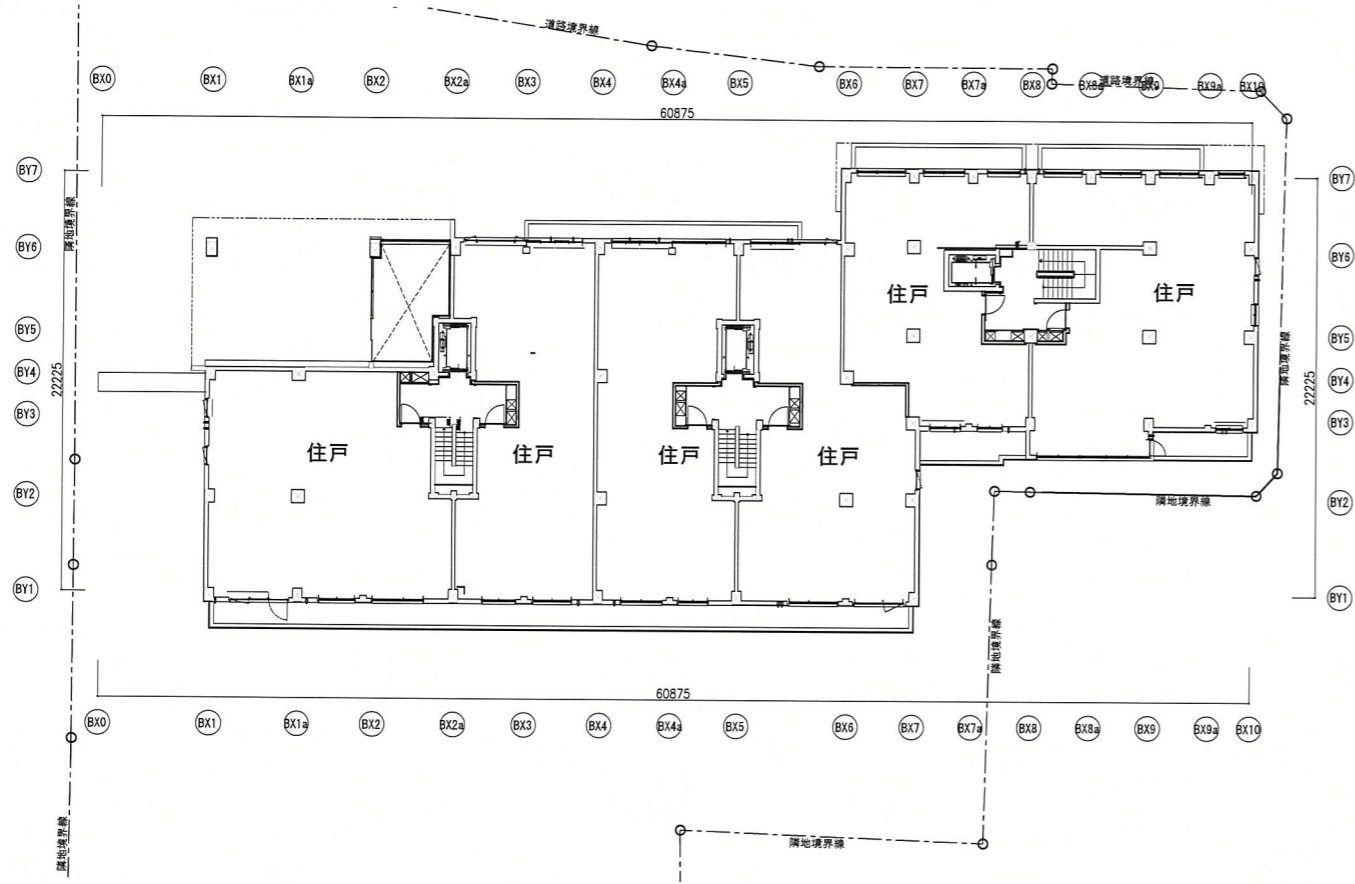
東側立面図



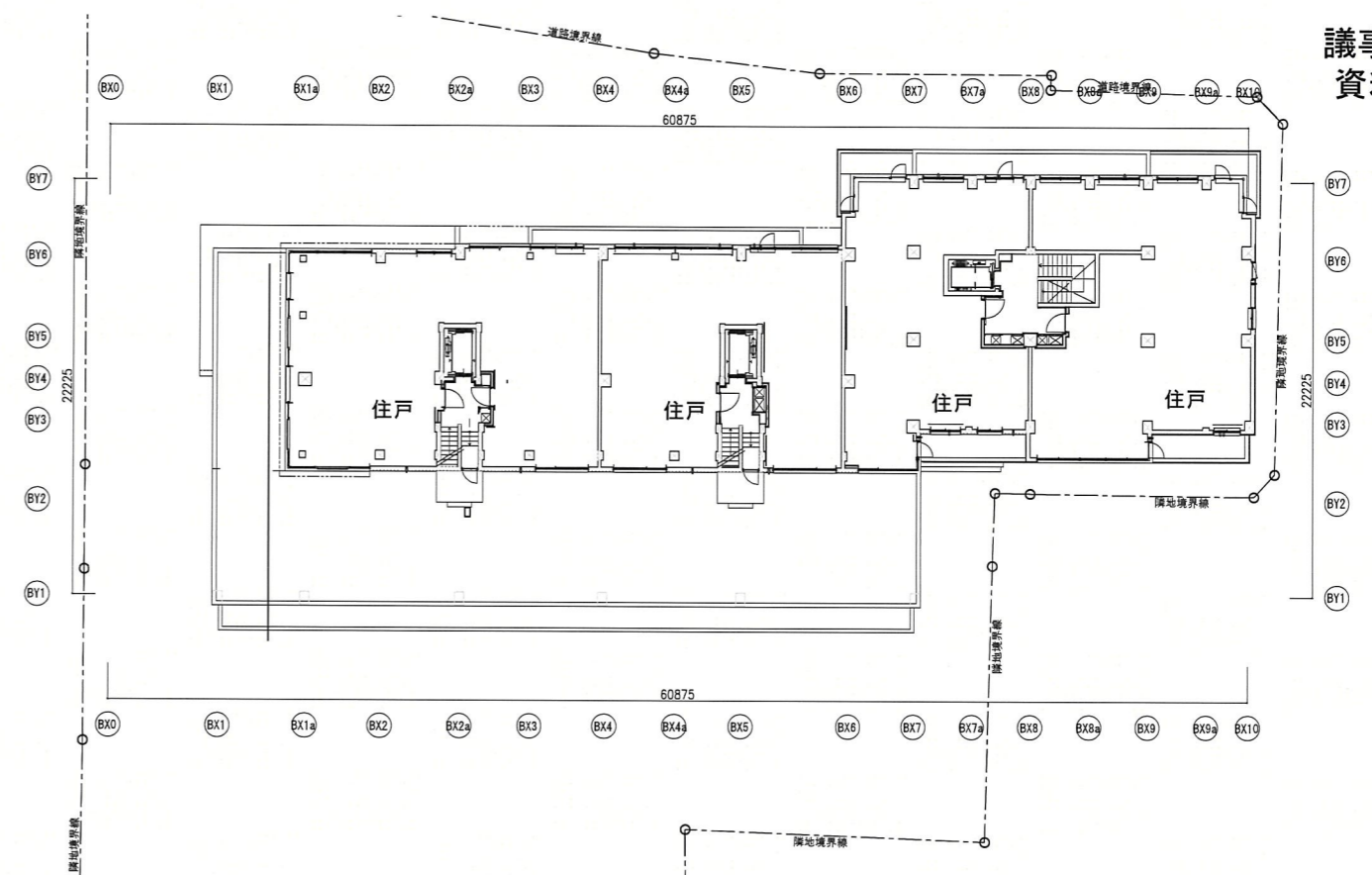
北側立面図



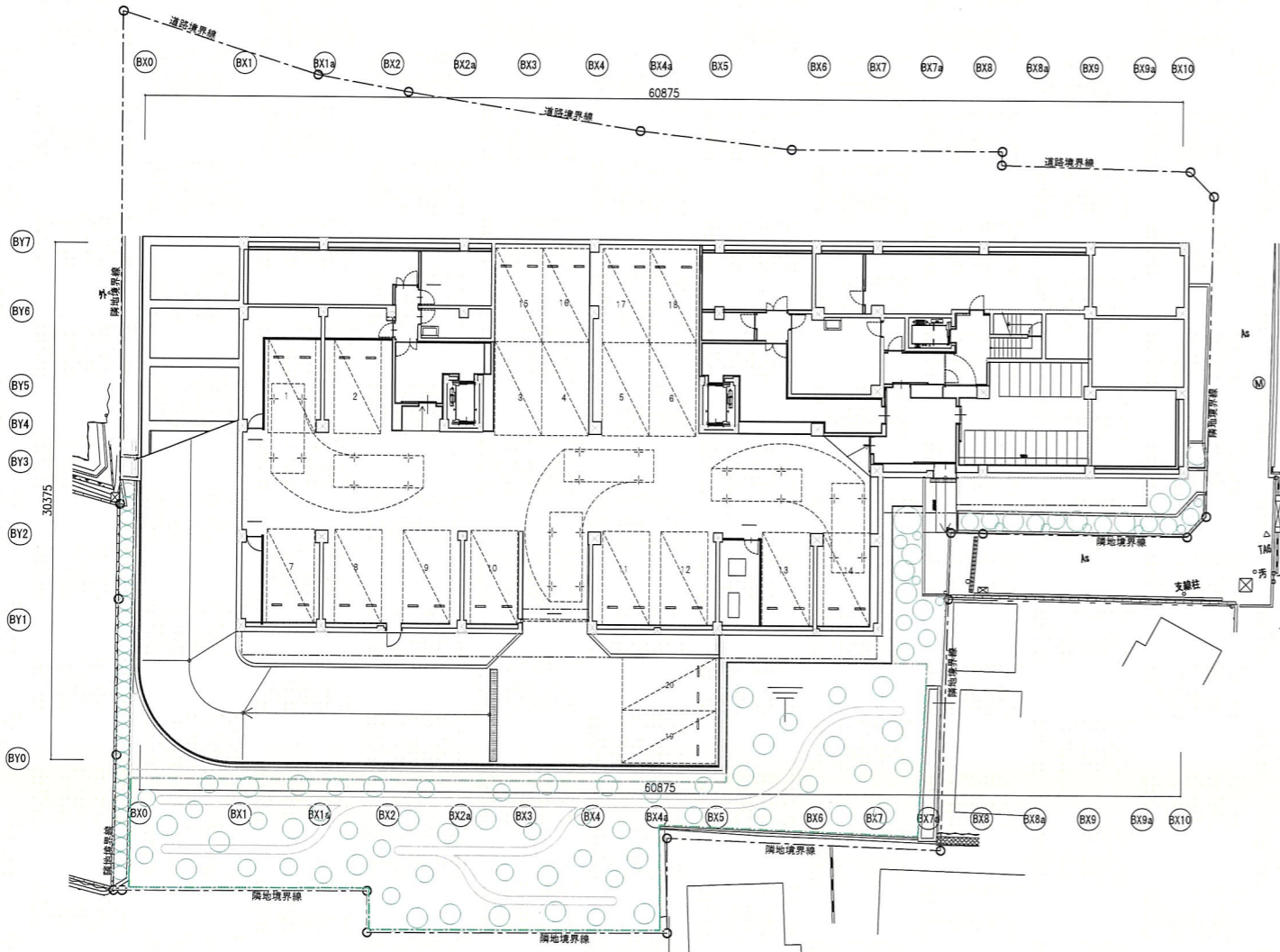
南側立面図



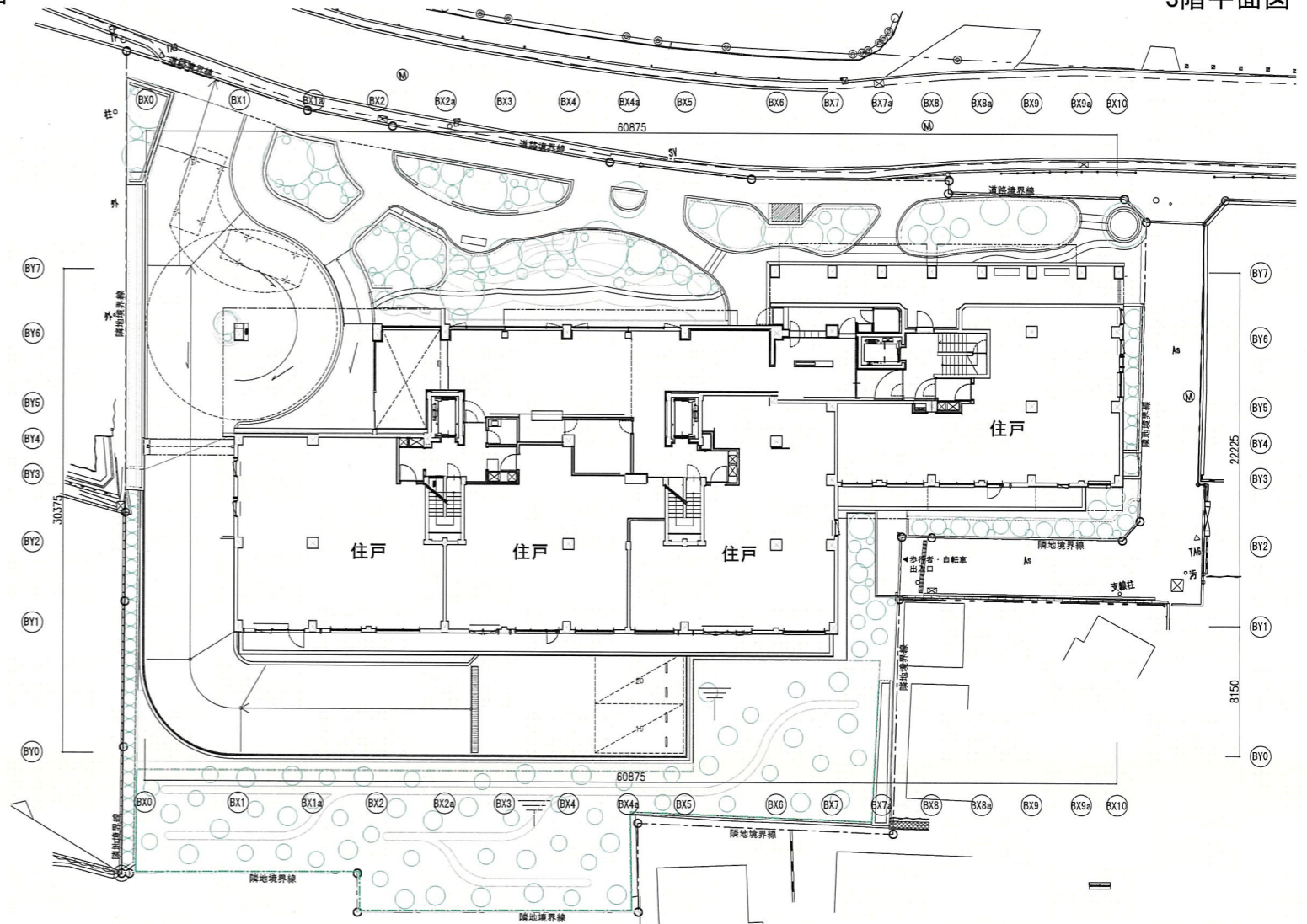
2階平面図



3階平面図



B1階平面図



1階平面図

前回の審議会をふまえた事業者との調整事項

(前回：第69回横浜市都市美対策審議会景観審査部会 令和4年11月22日)

前回の都市美対策審議会景観審査部会を踏まえて、以下の項目について協議・調整を行ってまいりましたので、次のとおり市の考え方を示します。

1 A敷地 山手本通り側の空地のつくりについて

前回の提案では、建築物に近い部分に一般の歩行者が通り抜けられる動線を設けていましたが、一般の歩行者には入りづらくここを通ることはないだろうとのご指摘を受けました。今回は、歩行者動線を敷地内に誘導するのではなく、山手本通りの歩道沿いに空地を設け、歩行空間にゆとりをもたせる計画としています。また、居住者向けの空間に見えることとご指摘を受けました交差点付近の空地では、舗装やベンチなどの設えを工夫することにより、一般の人が入りやすい広場状の空間としており、山手の景観への貢献がより明快な計画になっています。

2 A敷地 陣屋坂沿いの擁壁及び建築物の圧迫感の軽減について

盛り土によって新たに造成する宅盤とその上の建築物による圧迫感を軽減するために、今回の計画では、宅盤の高さを当初の計画より全体的に70cm下げ、さらに、建築物の3階部分を一部セットバックさせています。さらに、C敷地との取り合い部では擁壁下の植栽をより密に配置することで、緑豊かな街路空間を形成するとともに、擁壁の圧迫感をやわらげる工夫をしています。

3 B敷地 建築物の分節について

B敷地の建築物のボリューム感を軽減するために、今回の計画では、ひさしを設ける範囲や窓の形状を工夫したり、外壁の素材に変化をもたせたりすることで、港の見える丘公園側の通りに面するファサードを大きく3つに分節し、山手のスケール感になじむよう配慮しています。また、ファサードのデザインには、山手の西洋館の要素を取り入れる工夫もなされています。

4 B敷地 港の見える丘公園側の歩道に面する空地へのアクセスのしやすさについて

前回の提案では、港の見える丘公園側の歩道に面する空地について、一般の歩行者がより入りやすくなるような工夫を求められました。今回の計画では、植栽帯の形状等を見直し、空地にアクセスできる部分を増やしています。

5 B敷地 C敷地側からの見え方について

地下駐車場へ続く車路の隣地からの見え方について、今回の計画では、車路の側面に沿ってより密に植栽を配置し、車路の側面が隣地から見えにくくなるよう配慮をしています。